

年間10億円規模の成果を生み出したAI前提組織 ー AI駆動開発・AIOpsの実践

2026年7月30日
NTTドコモ 三井 力

You code it. You build it. You ship it. You run it. You own it.



プロダクトデザイン部の立ち位置（～2026.6）

ドコモグループ

通信事業

スマートライフ事業

法人事業



あんしん
セキュリティ

ひかりTV

ドコモでんき
ドコモガス

など**100+** の開発&運用をプロダクトデザイン部が所掌

年間リリース回数 **12,000+**

プロダクトデザイン部の立ち位置（2026.7～）

ドコモグループ

通信事業

スマートライフ事業

法人事業

ahā

My docomo

ドコモ 光

d POINT

あんしん
セキュリティ

ドコモでんき
ドコモ ガス

つながる。驚きを。幸せを。
NTT docomo Financial Group

Lemino

d マガジン

d アニメストア

d ヘルスケア

d

d POINT MARKET

ひかりTV

d CARD

d払い

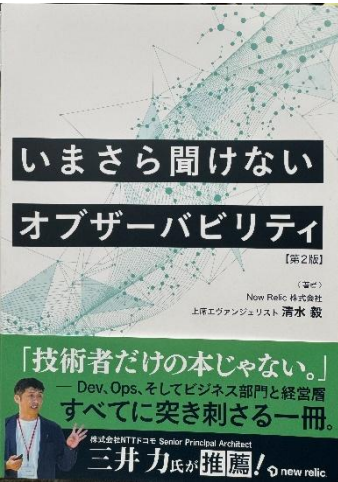
iD

など**100+** の開発&運用をプロダクトデザイン部が所掌

年間リリース回数 **12,000+**



三井 力



NewRelicさんの本の
帯も書かせていただきました

100超のプロダクトに対して取組み	分類	各取組みに関連する主な講演
① AI駆動開発、その他AI活用	Delivery	AI DevEx Conference 2026 AWS AI Frontier Meetup 2026 Cloud Operator Days 2026
② クラウドネイティブ化、クラウドコスト効率化 90%以上クラウドネイティブ化 2年連続10億円超削減	Delivery Cost	AWS Summit 2019, 2020, 2025 Enterprise-JAWS 2020
③ アジャイル開発・準内製化 0%⇒60%(125プロダクト)	Delivery	RedHat Summit 2025 US RedHat Summit 2025 JP MagicPod Meet Up 2025
④ SRE・オブザーバビリティ MTTA + MTTR 87%削減	Quality	Datadog Live 2026 Datadog Executive RT 2025
⑤ アプリマーケティング・データ活用 主要10アプリスコア 3.2⇒4.3	Value	App Growth Summit 2025 DASH 2024 US
⑥ エンジニアリング組織強化の仕組み化 文化、可視化、コミュニティ、環境	Base	AWS Summit 2020, 2025 DX前提社会における組織2025

アジェンダ



■AI前提組織への取り組み



■AIエージェントを作る



■AIサービスを提供する



■AI駆動開発

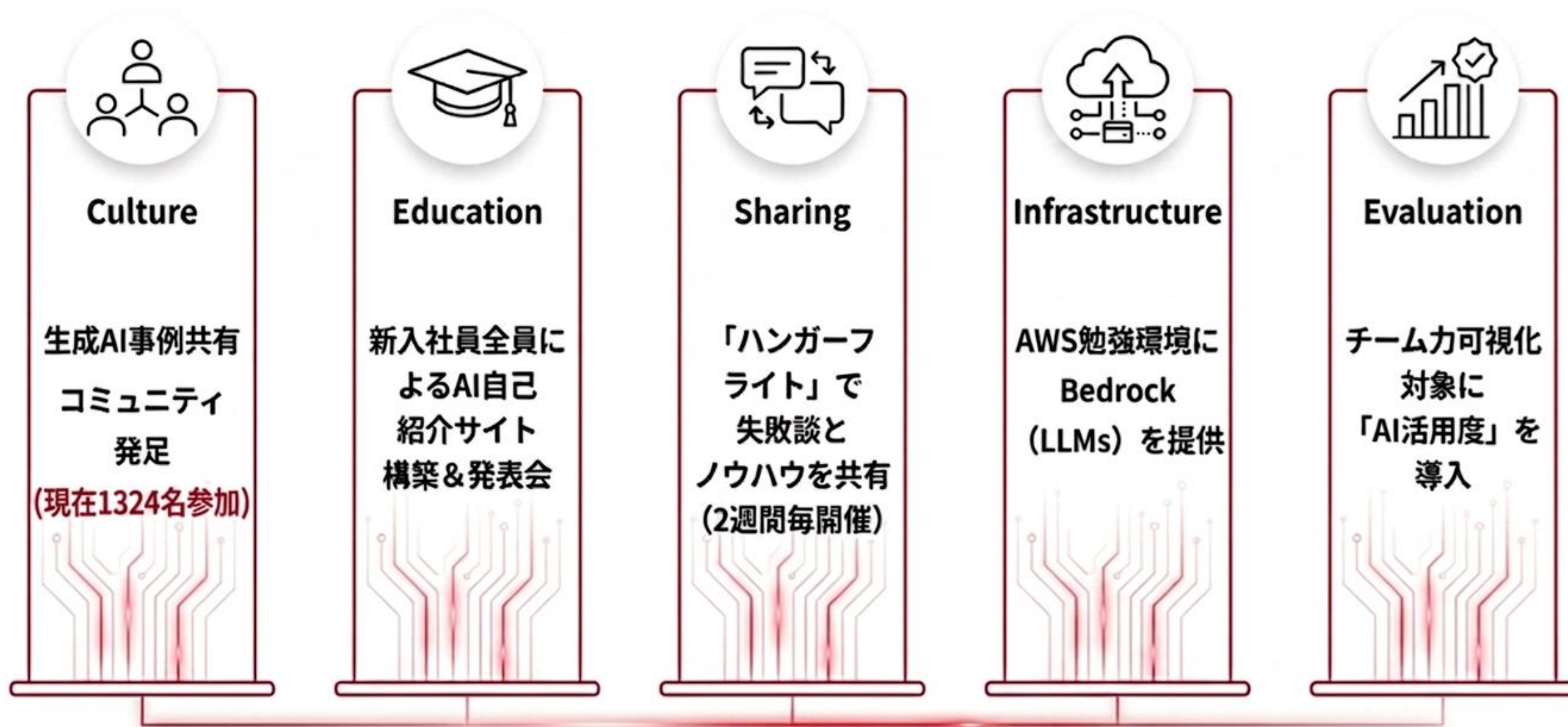
- デザインと実装
- 実装とレビューと試験
- AIOpsとガードレール



■今後へ向けて

組織としてのAI活用

2025年度「生成AI本格活用元年」の宣言と実行



現場の熱狂が生んだ、巨大なビジネスインパクト

252件

今年度部内創出アイデア数
(Entries)

2.5億円

今年度貢献見込
(Current Impact)

10.8億円

来年度拡大見込
(Future Impact)

実験段階を超え、確かな成果へ。現場の「やりたい」という熱意がこの数字を作った。

AIは「点」ではなく「面」で活用する

開発の一部分だけでなく、業務プロセスの全域にAIがパートナーとして浸透している。



【事例1】「誰でも、いつでも」凄腕に相談できる環境へ

組織長レベルの知見活用と、問い合わせ対応の自動化による業務時間の創出

マルチ部長エージェント

統括長・組織長・スペシャリスト計4名の人格をAIに搭載



週 389 コール

社員の業務に深く浸透し、実際の役職者より「少し優しく」
相談しやすいパートナーとして定着。

活用シーン：資料レビュー・壁打ち・設計レビュー・キャリア相談

問い合わせ革命

社内外からの膨大な問い合わせ対応を刷新



8割をAIが解決

人の手を煩わせることなく、AIが自動で回答・解決。

私たちは「人間にしかできない本質的な業務」に
集中できる時間を獲得。

AIを前提とすることで、「時間の使い方の質」が劇的に向上しています。

【事例2】小規模システムや超大規模システム開発の効率化



小規模システム



デザイン → 実装 → 試験
の全工程にAIを活用

3日 → 30分
で完了



超大規模システム



Slackに話しかけるだけで

設計・実装状況を即座に調査・回答

追加開発の見積がベンダー依存で従来

1か月 → 数分

実施可否の判断が早くなった

ドコモ・プロダクトデザイン部のAI活用は登壇依頼多数

(2025.12-2026.2)

登壇依頼多数



超大規模システムの仕様・実装確認事例

AWS (JAWS-UG)登壇。AIを活用した効率化の取り組み。



AIによるシステム監視事例

Datadog Live基調講演。運用監視の高度化を実現。



AIによるE2E試験効率化事例

MagicPod MeetUp登壇。テスト自動化におけるAI活用の成果。



AIを活用したDX事例

AI Conference登壇。全社的なDX推進への貢献。



AIプロダクト内製技術面で1位獲得

Angel Dojo。内製開発力の高さを証明。

10社中1位



Copilot万博 最優秀賞

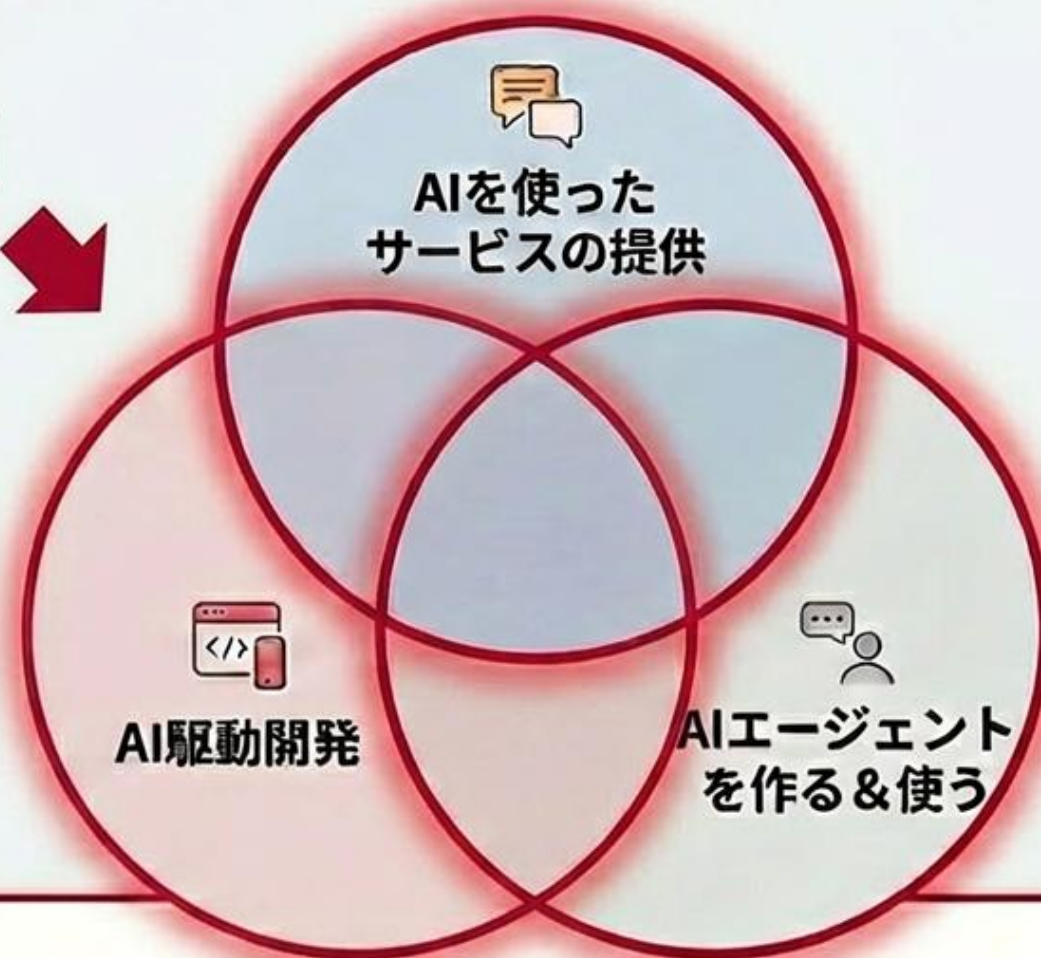
生成AI活用の優れた取り組みとして評価。

最優秀賞

※社外登壇/受賞の一例

顧客体験価値向上、競争力向上のためのAI活用

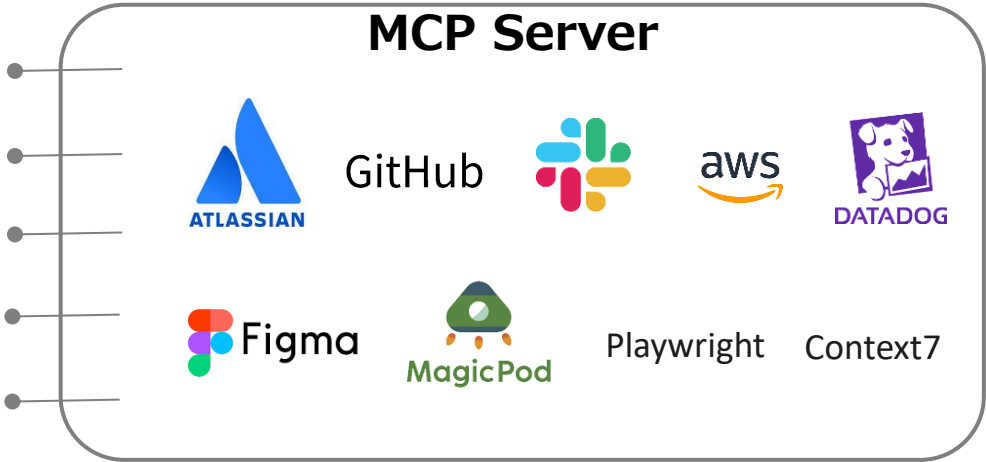
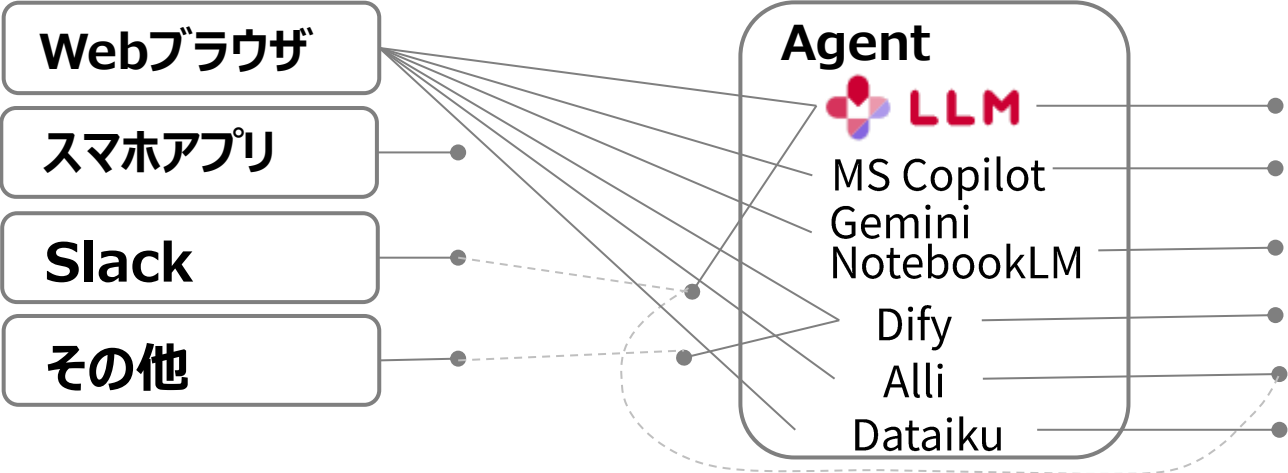
【注力領域】



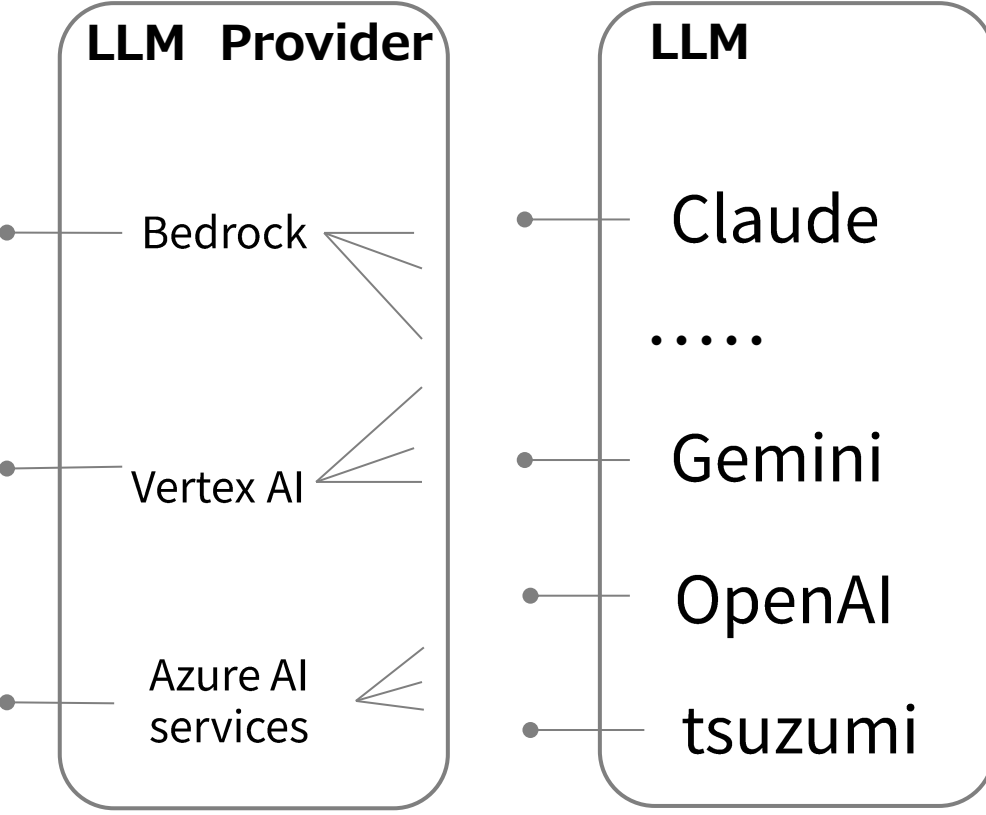
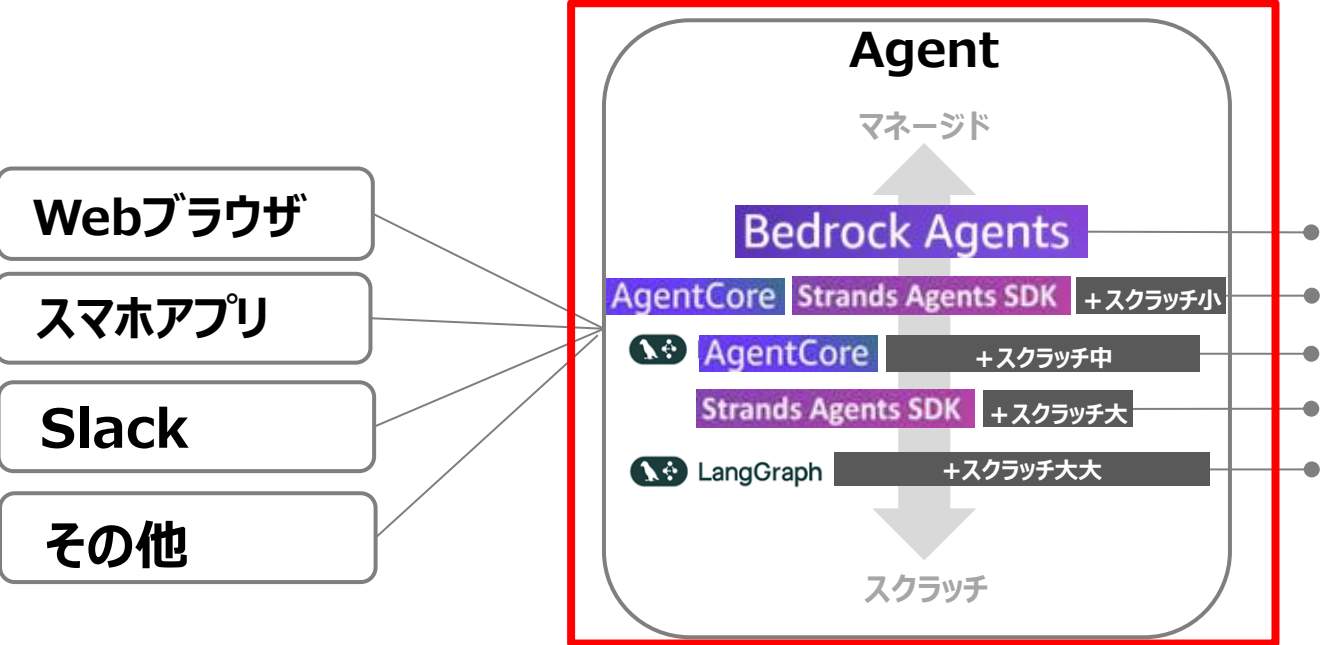
 既製のAIを使う（Chatやエージェント） 【あたりまえ】

AIエージェントを作る

AI業務改善（AIEージェントを使う）



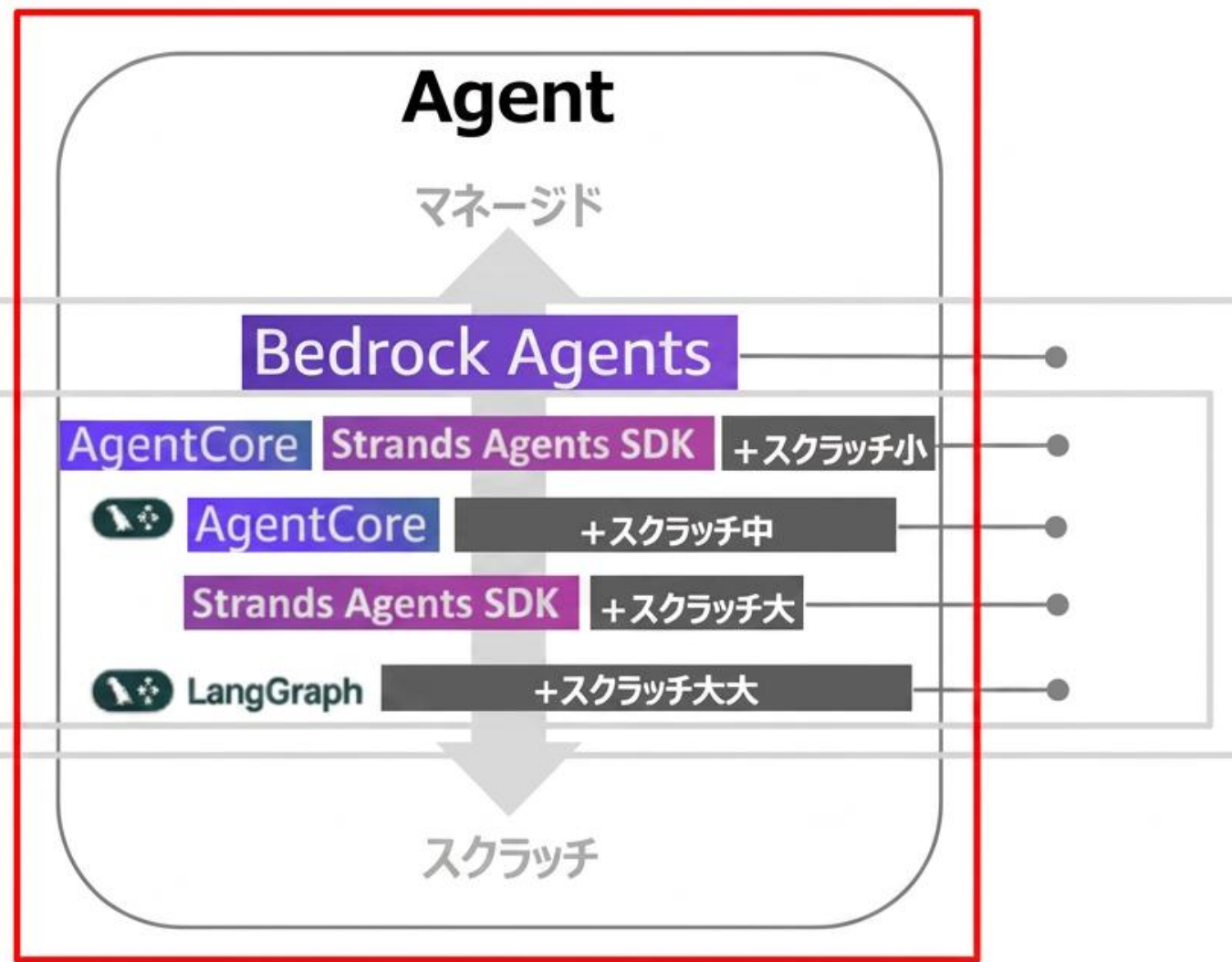
C向けやAI業務改革（AIEージェントを作る）



AWS各種サービスとの連携がしやすい

この4つの特徴

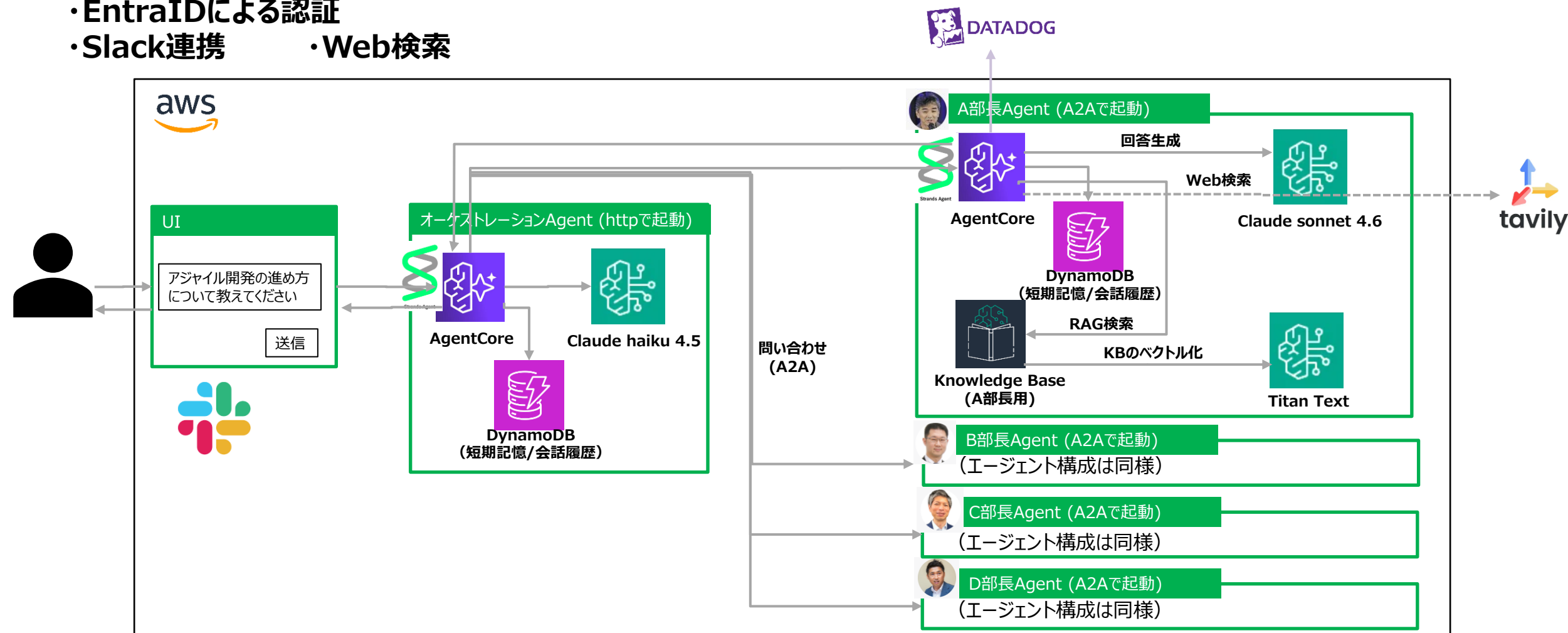
- ・非常に汎用性が高い
- ・差別化不要な部分は作らなくてよい
- ・カスタマイズやチューニングしやすい



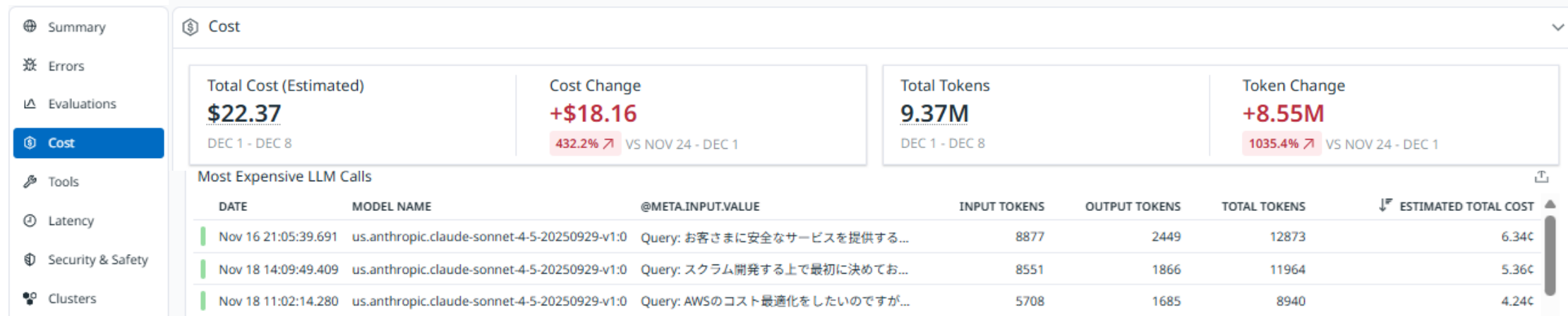
マルチ部長エージェント

- AgentCore + StrandsSDK + Bedrock(LLM)
- S3 vector
- Agent-to-Agent(A2A)構成
- SSE (Server-Sent Event)
- EntraIDによる認証
- Slack連携 • Web検索

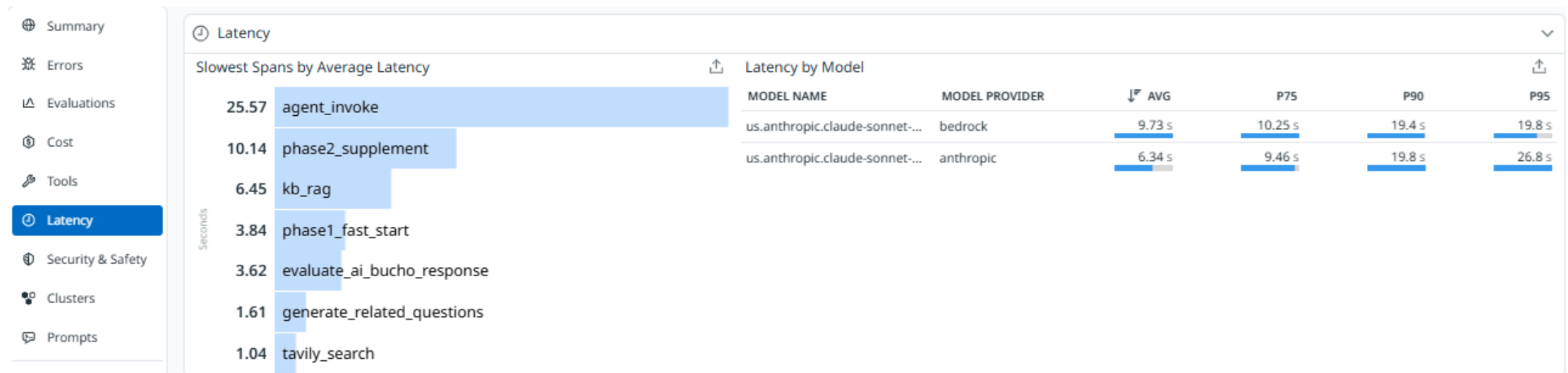
1か月でローンチ (0.5人月)



■ Cost LLMで消費するトークン量やコストの監視。コストが大きくなるコールはどのようなものかすぐに分析できる

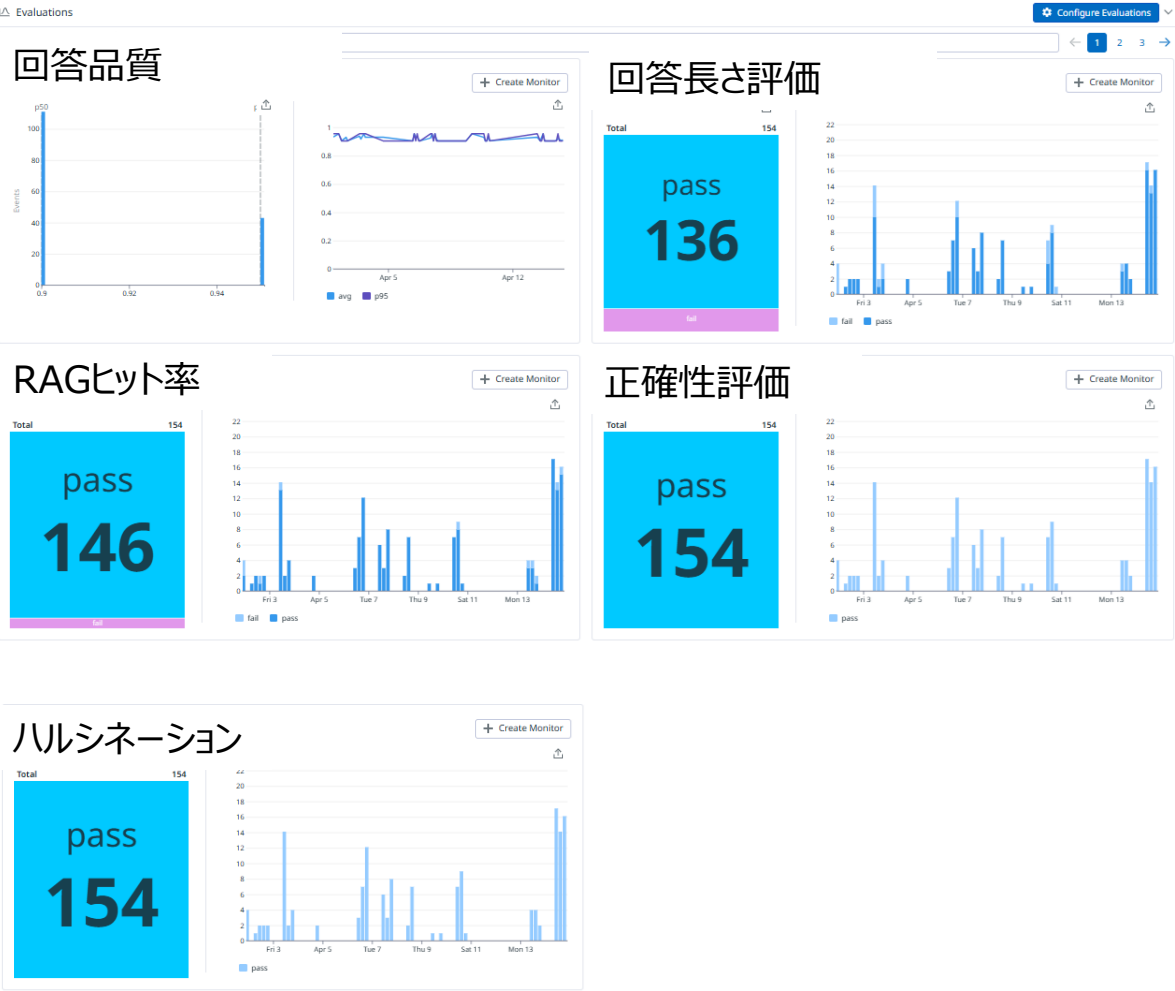


■ Latency 平均値、90%ileなどユーザの待ち時間を確認可能



Evaluations（評価機能）

LLMアプリケーションの品質、精度、安全性を測定・監視するための機能。
LLMの出力が期待通りかを定量的・定性的に評価可能



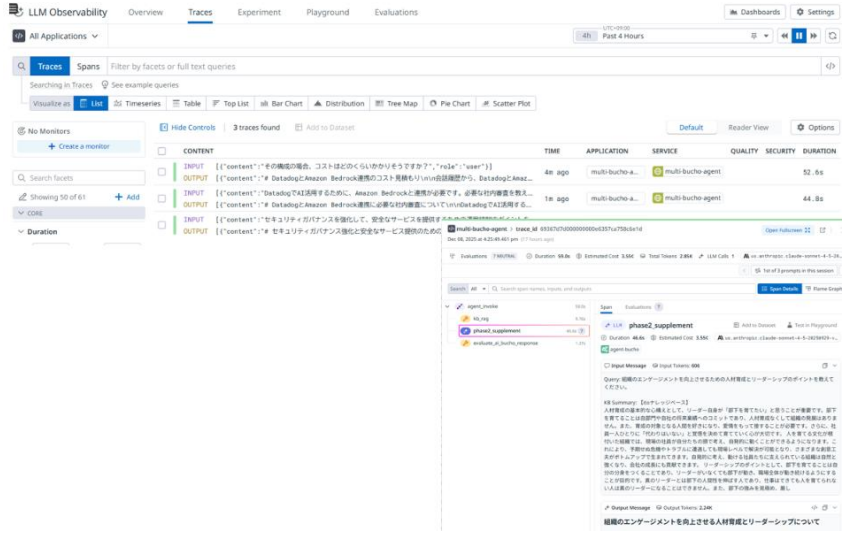
Security & Safety

LLMアプリケーションのセキュリティリスクと安全性を評価・監視する。
プロンプトインジェクション、機密データ漏洩、有害コンテンツ、jailbreak攻撃などの脅威を検出



Trace

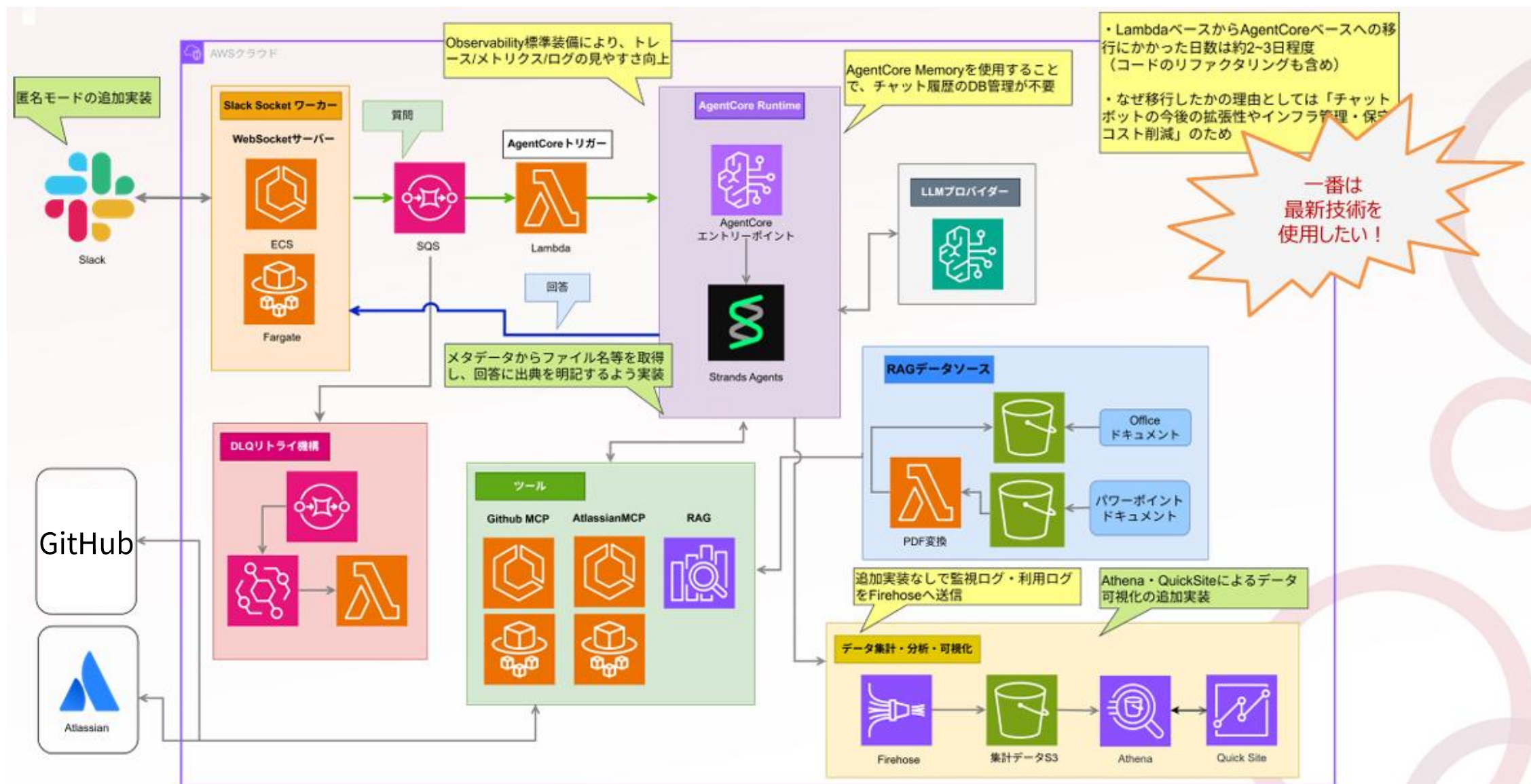
AIエージェントの各処理のTrace情報をチェックできる



超大規模システム（仕様や設計調査の効率化）

- AgentCore + StrandsSDK + Bedrock(LLM)
- OpenSearch ベクトル検索 ・各種MCPサーバー連携

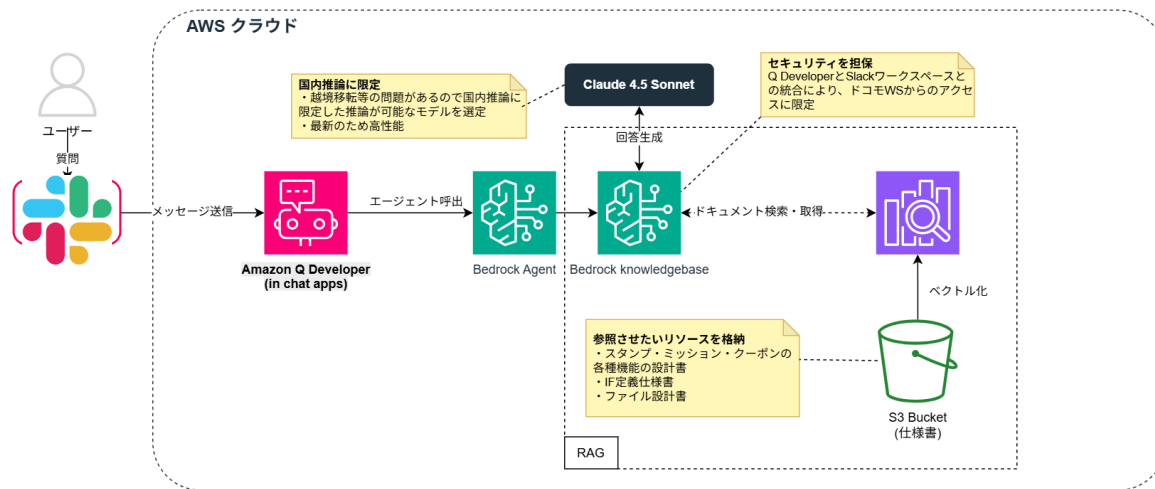
社員2人で内製



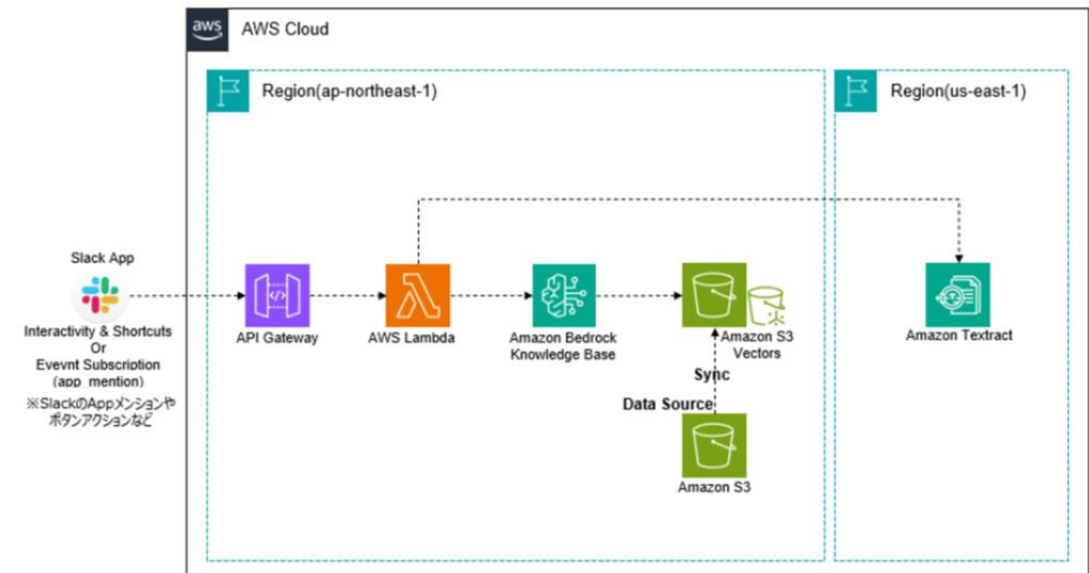
- Bedrock Agent+Bedrock(LLM)
- Bedrock Knowledge Base
- S3 vector、Opensearch ベクトル検索
- Bedrock Knowledge Base
- Slack連携
- AI駆動開発

8割の問合せをAIが解決

Type A



Type B

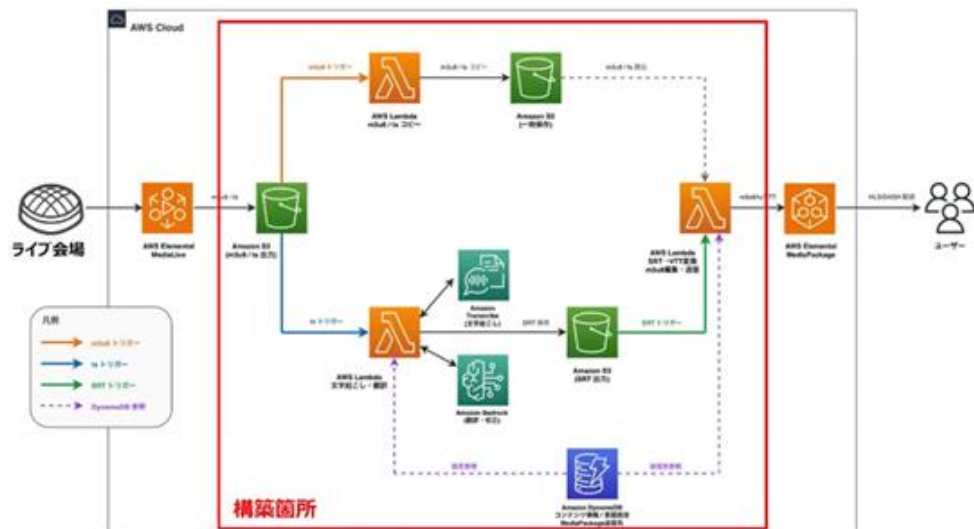
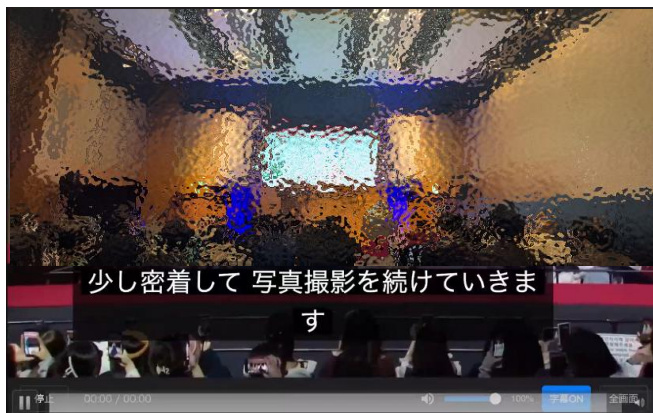


双方IaCテンプレート（Cloudformation,CDK）として社内に配布（6件水平展開済）

AIサービスの提供

Lemino (PoC)

AIを利用したリアルタイム翻訳システムにより**全自動 + 98.5%コスト削減**を実現！**UX向上とビジネスチャンス**を拡げる施策。



SyncMe

コンシューマー向けAIエージェントサービス



AI駆動開発

2026年3月 AI駆動開発宣言
～アクティブに開発があるプロダクトは全てAI駆動開発へ～

AI駆動開発を実施する目的



顧客体験価値を高速に向上

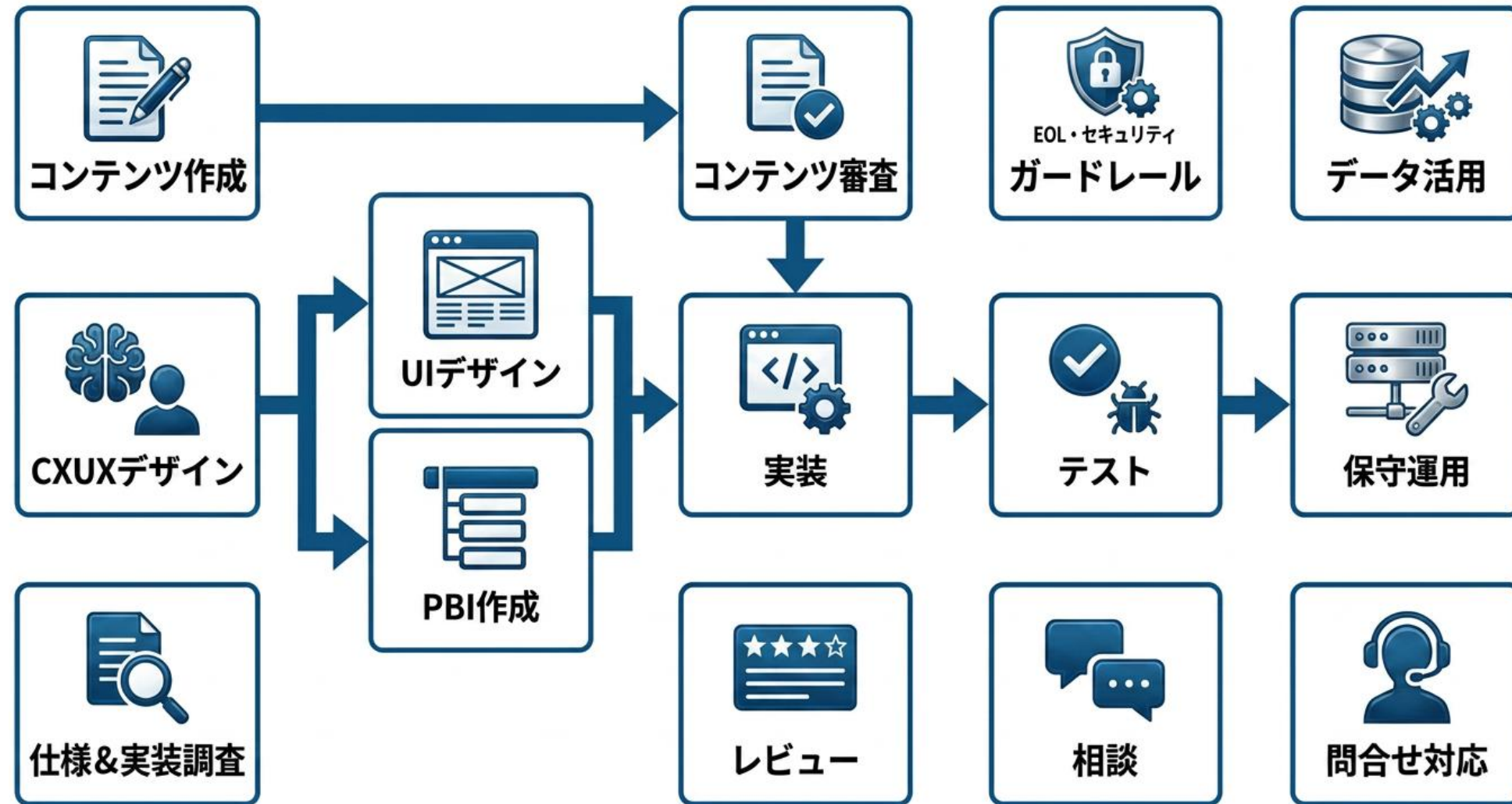
体験改善のサイクルを短縮し、価値提供を加速



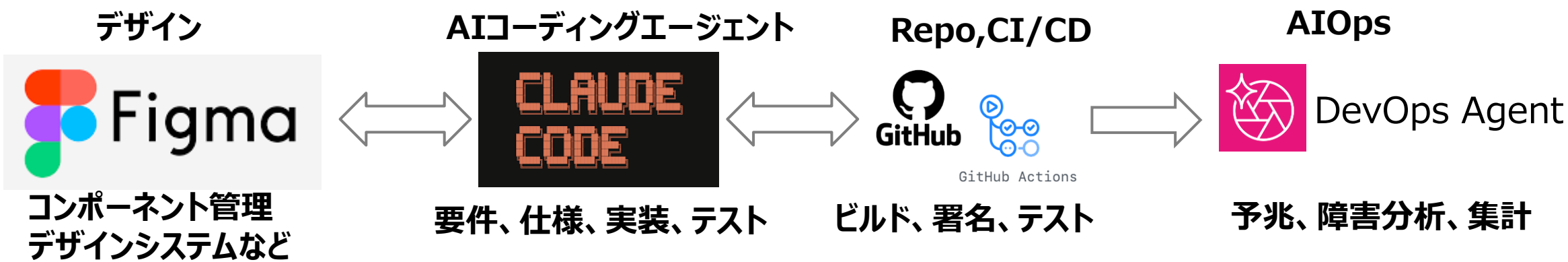
競争力向上

開発スピード×品質を高め、市場優位を強化

開発全体にAIを活用していく



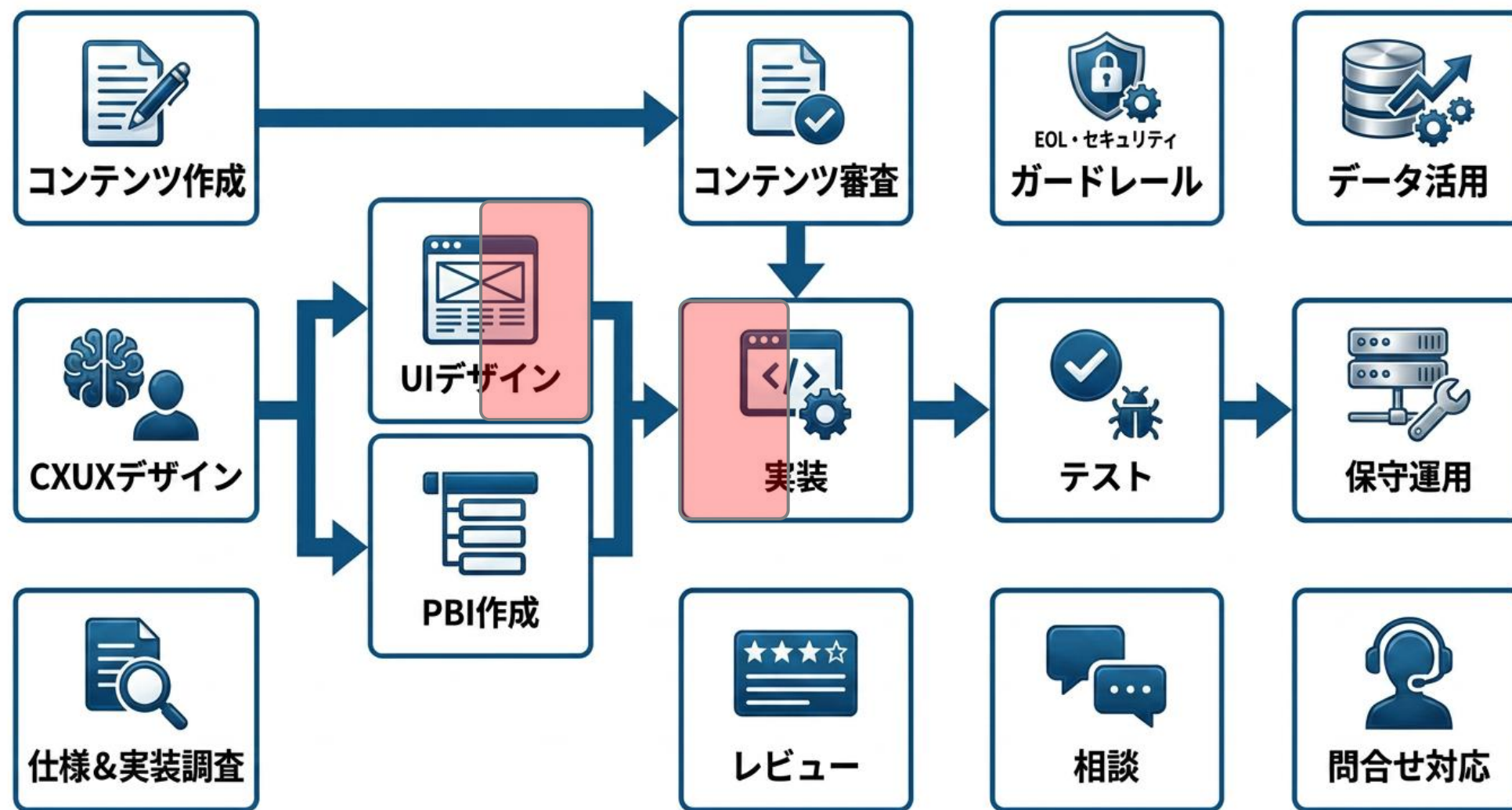
デザイン、実装、監視まで全てAIドリブンにする



今日話す範囲

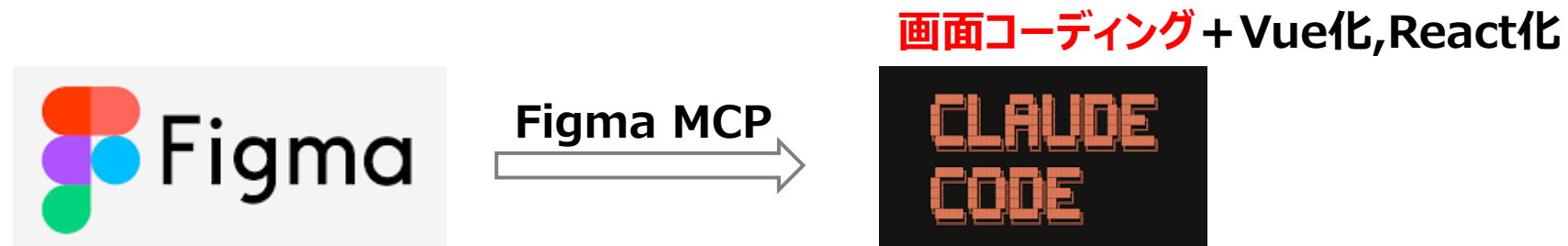
今日話す範囲

AI駆動開発：デザインと実装

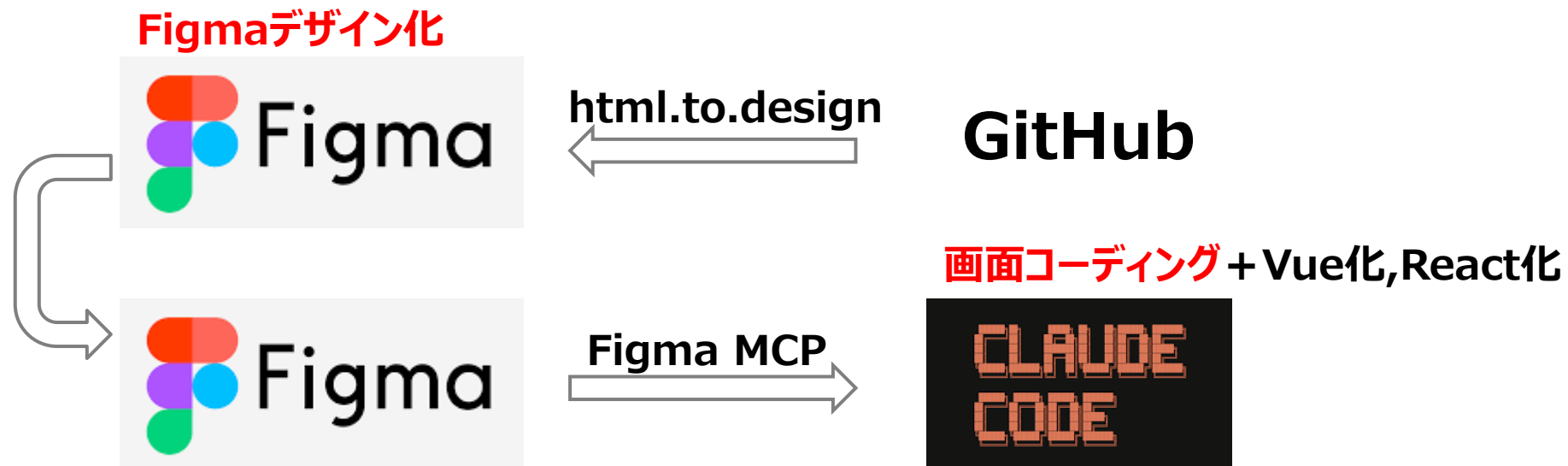


Figmaのデザインを基にAIコーディング

- もともとFigmaを使っているチーム、新規プロダクト開発



- AI駆動開発を機にFigmaを使うチーム（既存のデザイン含めてデザイン化）



現行システムの画面

Figmaデザイン化

AIコーディングした画面

dアカウント調査センター基盤

TOP

案件更新

データ入力

データ出力

DWH調査

CIRCUS調査

CIRCUS作業

CIRCUS調査画面

CIRCUS調査

表示データ数: 10▼

ページ 1 / 3 ◀ 前のページ 次のページ ▶

受付時刻	処理件数	処理状況
20260202084811	1/1	正常終了
20260202084445	1/1	正常終了
20260130193505	1/1	正常終了
20260130192655	1/1	正常終了
20260130191624	1/1	正常終了
20260130185832	0/0	正常終了

dアカウント調査センター基盤

TOP

案件更新

データ入力

データ出力

CIRCUS調査

メールテンプレート管理

アカウント管理

CIRCUS調査画面

CIRCUS調査

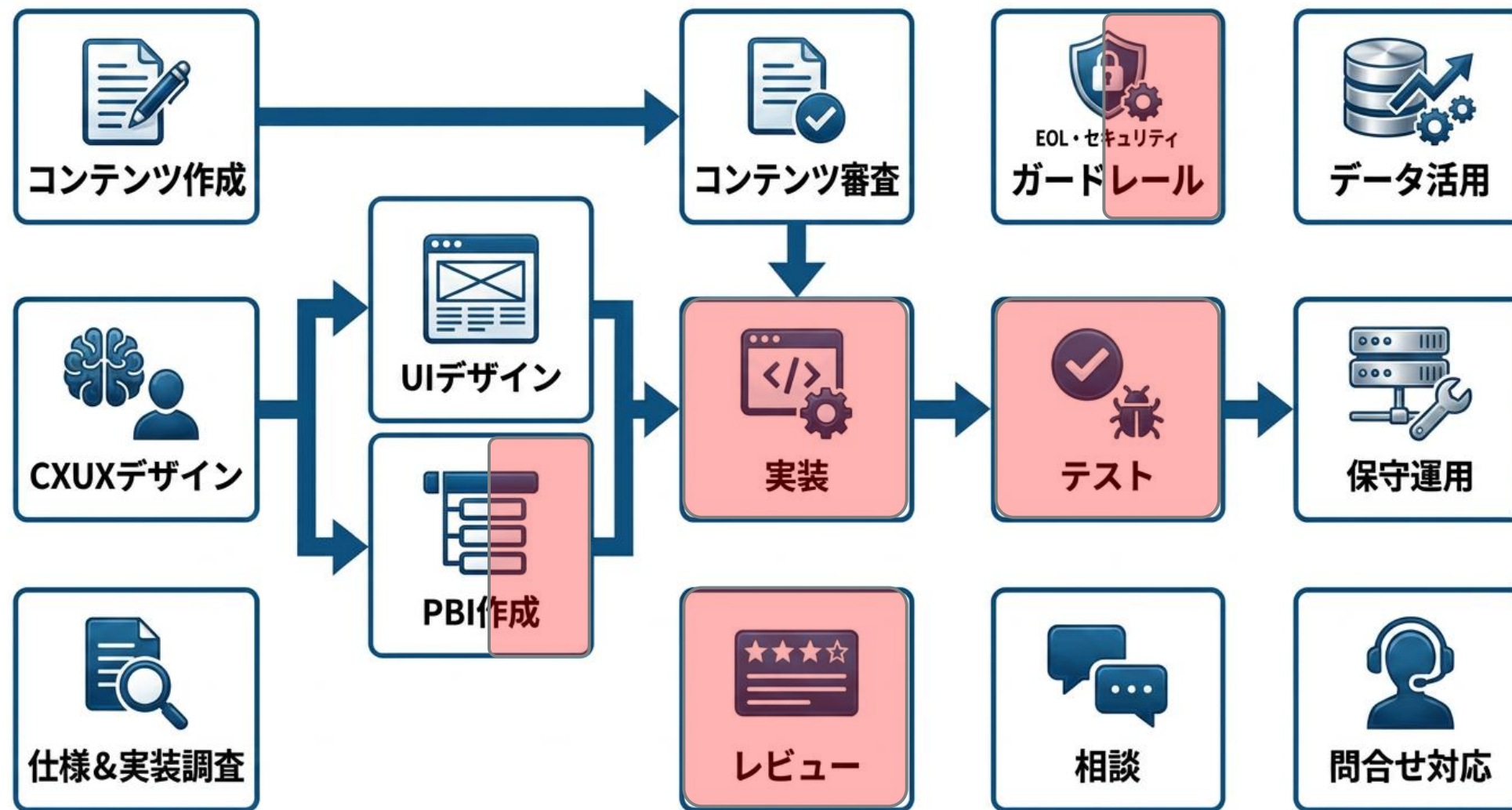
表示データ数: 10▼

ページ 1 / 3 ◀ 前のページ 次のページ ▶

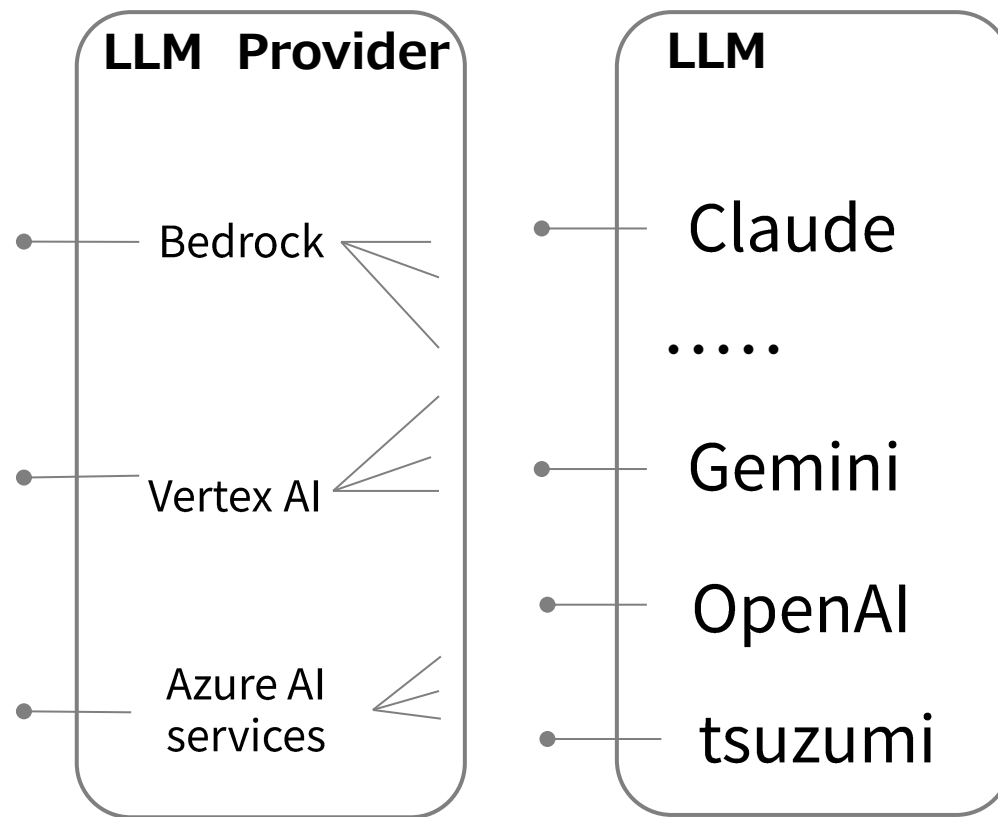
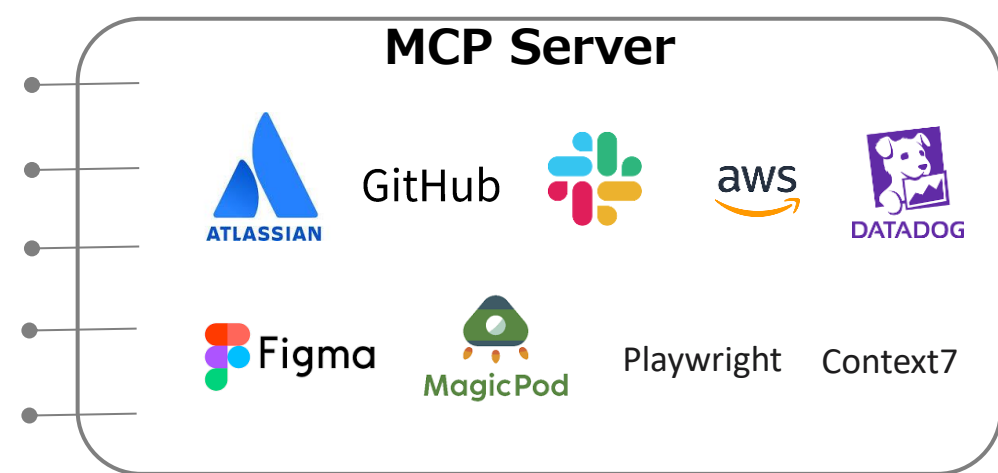
受付時刻	処理件数	処理状況
20260202084811	1/1	正常終了
20260202084445	1/1	正常終了
20260130193505	1/1	正常終了
20260130192655	1/1	正常終了

AI駆動開発：実装とレビューと試験

狭義のAI駆動開発（AI-DLC含む）



AIコーディングエージェントを使う



AI駆動開発

中～大規模商用システムのAI駆動開発例

NTT docomo

	要件を決める 仕様駆動	実装・テスト作成	監査	PRレビュー
2PD) : 補完 決済利用停止システム	CLAUDE CODE	CLAUDE CODE	Amazon Q Developer	GitHub Copilot + 人
1PD) : 補完 問合せシステム	CLAUDE CODE	CLAUDE CODE	Amazon Inspector	+ 人
1PD) : 中核 メッセージシステム	KIRO	GitHub Copilot	GitHub Copilot	GitHub Copilot + 人
1PD) : 中核 エージェント	CLAUDE CODE	CLAUDE CODE	CLAUDE CODE	+ 人
1PD) : 中核 映像配信	Amazon Q Developer	Amazon Q Developer	Amazon Q Developer	+ 人
1PD) : 中核 クーポンメッセージ	Amazon Q Developer	Amazon Q Developer	Amazon Q Developer	+ 人



AI駆動開発の取組みで

- ・6割以上のチームが3倍以上高速開発
- ・残りのほとんどのチームが40%以上の効率化が

できているが、

AI駆動開発の不安と、解決の鍵

AI駆動開発の不安点



品質やセキュリティが
保てているか心配



AIの記憶喪失、
迷走のリスク

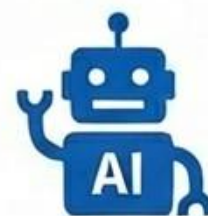


コード生産性が高すぎるため
レビューが超大変



解決へのアプローチ

AIが本当に信頼できる仕事を
する環境（仕組み）を作る



信頼できる環境・仕組み



高品質な成果

それが ハーネスエンジニアリング！

2026年2月、OpenAIのエンジニアRyan Lopopoloが発表した記事「Harness engineering: leveraging Codex in an agent-first world」が起点

ハーネスエンジニアリング



① ルールファイル

- Claude.md (Claude Code) / steering (Kiro) / instructions.md (GH Copilot) で行動規範を統一
- 同じ誤りが2回以上なら、ルール (Claude.md / Skills / Hooks) を更新



② フィードバックループ

- テストが通るまで**自律修正** (自動試験)
- カバレッジ100%・TDD/BDD、Lint/Format/型チェックでミスを**早期検出**



③ コンテキスト管理・メモリ

- 進捗ファイルで引継ぎ (状態・決定・未解決を残す)
- 長期タスクでも迷子にならない“参照点”を設計



④ リソースのコントロール

- **推論サンドイッチ**: 仕様 (深い推論) ⇒ 実装 ⇒ テスト ⇒ レビュー (深い推論)
- 深い推論は要所に限定し、コストと品質を両立



⑤ 権限の管理

- アクセス可能なファイル範囲 / 実行可能コマンドを制限
- 禁止操作はHooks/監視プロキシ等で**決定論的にブロック**



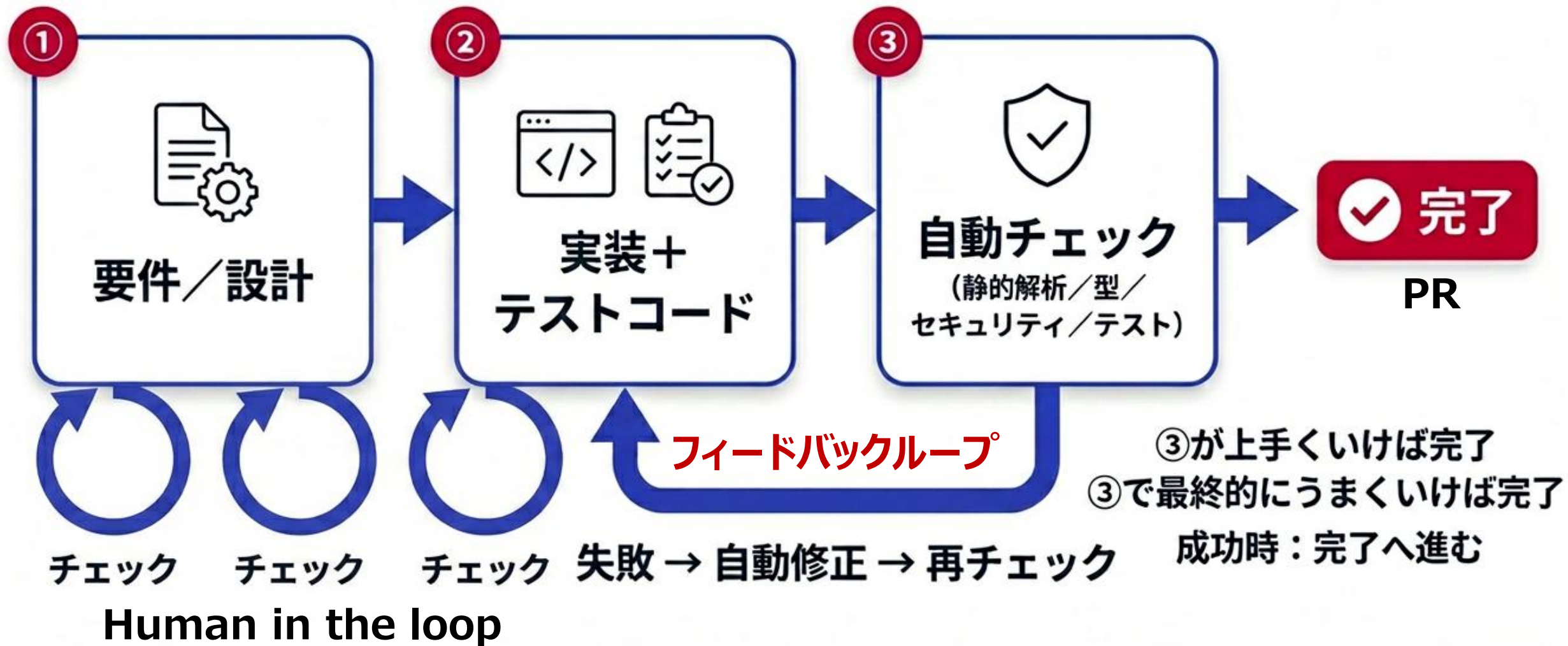
⑥ その他

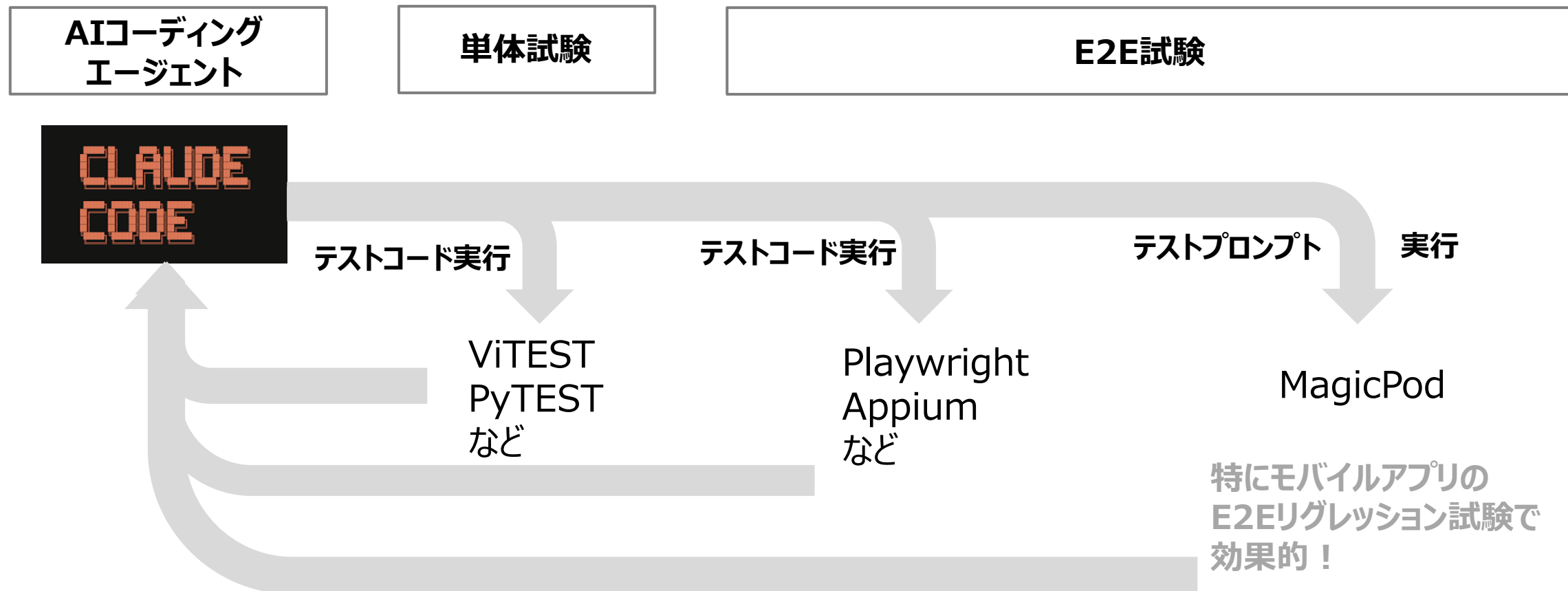
- チーム/組織に合わせて拡張 (例: 監査、標準化、モニタリング)
- 継続改善 (運用ログ→ルール更新→再学習)

※ AIを“望む方向に導く”ための統制設計

ハーネスエンジニアリング例

AIコーディングエージェントが以下すべてをコントロールする





Claude Codeの役割

- AIによる**テストコード**作成
- テスト実行
- テスト失敗時の修正コード作成

- AIによる**テストプロンプト**作成
- テスト実行
- テスト失敗時の修正コード作成

ディレクトリ構成



```
aidlc-project-template/
├── .github/
│   ├── copilot-instructions.md # AI-DLC: ワークフロー制御
│   ├── skills/ # AI-DLC: スキル定義 (20スキル)
│   │   ├── aidlc-*/ # AI-DLCワークフロースキル (18個)
│   │   ├── screen-transition-doc/ # 画面遷移図ドキュメント生成
│   │   └── webapi-spec/ # WebAPI仕様書生成
│   ├── agents/ # Security: セキュリティチェックAgent (17体)
│   ├── security-checklist-templates/ # Security: チェック項目テンプレート
│   ├── prompts/ # Prompts: プロンプトテンプレート
│   └── aidlc-config.json # Projects: 設定ファイル
├── ISSUE_TEMPLATE/ # Projects: Issue テンプレート
├── workflows/ # Projects: GitHub Actions
├── docs/
│   ├── ai-dlc-skills/ # AI-DLC Skills ドキュメント
│   ├── copilot-prompts/ # Copilot Prompts ドキュメント
│   │   ├── README.md # 概要ガイド
│   │   └── guides/ # 詳細リファレンス
│   ├── security-check/ # Security Check ドキュメント
│   ├── document-generation/ # ドキュメント生成ツール ドキュメント
│   └── github-projects/ # GitHub Projects連携 ドキュメント
│       ├── README.md # 概要ガイド
│       └── guides/ # 詳細リファレンス
├── scripts/ # ユーティリティスクリプト
└── README.md
```

※ AI-DLC Skills 実行時に aidlc-docs/ が自動生成されます

公開したテンプレートリポジトリの全体像

5つの独立したツール群を1つのテンプレートとして提供

改良版
AI-DLC Skills

18スキル

Mock・開発ルール・セキュリティ工程を追加

定型プロンプト
コマンド

3テンプレート

Issue一括作成・セッション管理

セキュリティ
チェックAgent

17エージェント

社内基準344項目の並列スキャン

ドキュメント
生成Skills

2スキル

画面遷移図・API仕様書の自動生成

GitHub
Projects自動化

10ワークフロー

ステータス同期・Issue整形・親子リンク

テンプレートの位置づけ
AWS Labs公開のAI-DLC WorkflowsをGitHub Copilot向けに再構築したものがベース
CV4開発で得た知見（Mock追加・セキュリティチェック・ドキュメント生成）を反映
各ツールは独立して利用可能。必要な機能だけを選んで導入できる

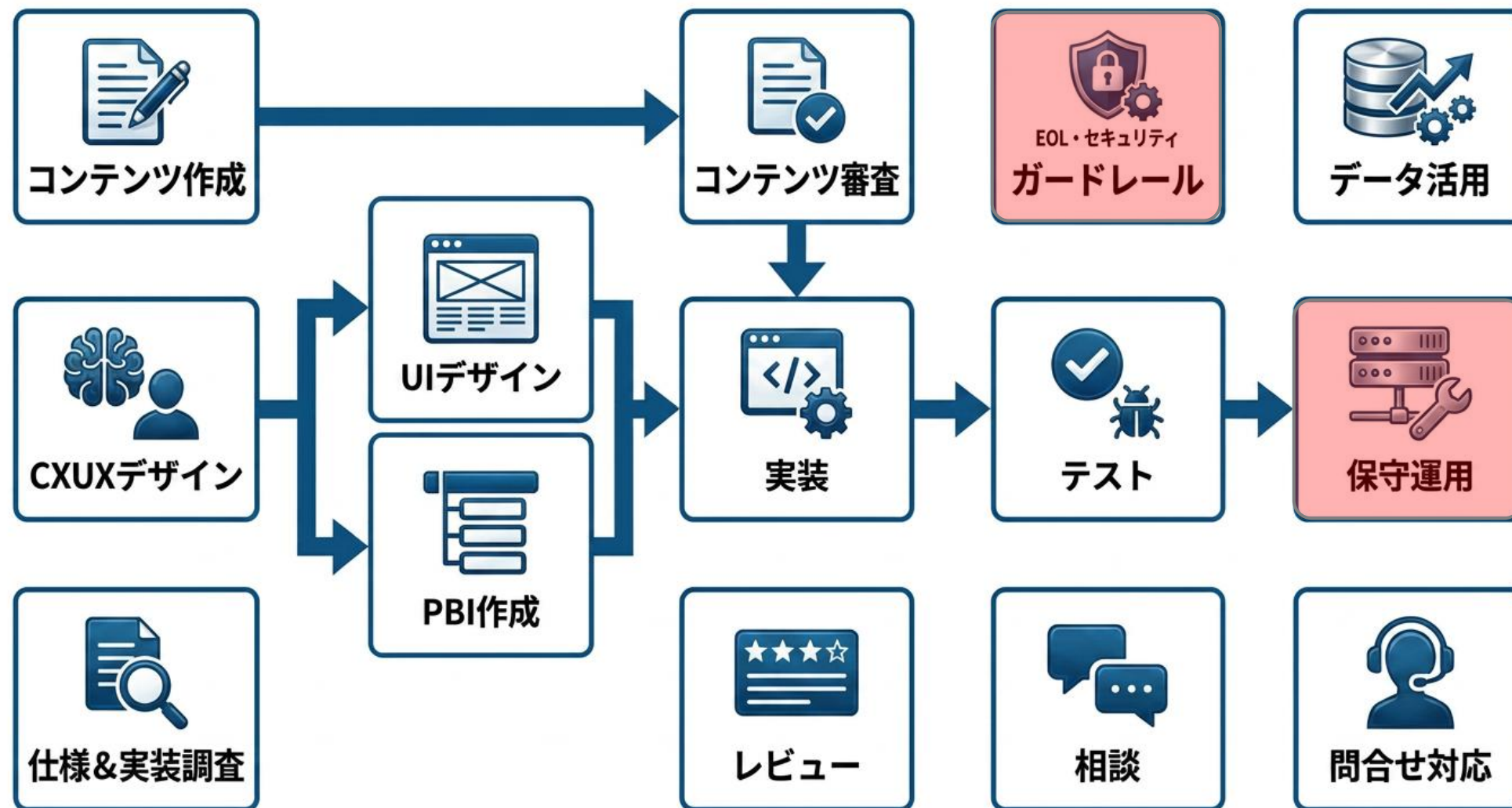
参考：AI-DLCスキル 18スキル一覧

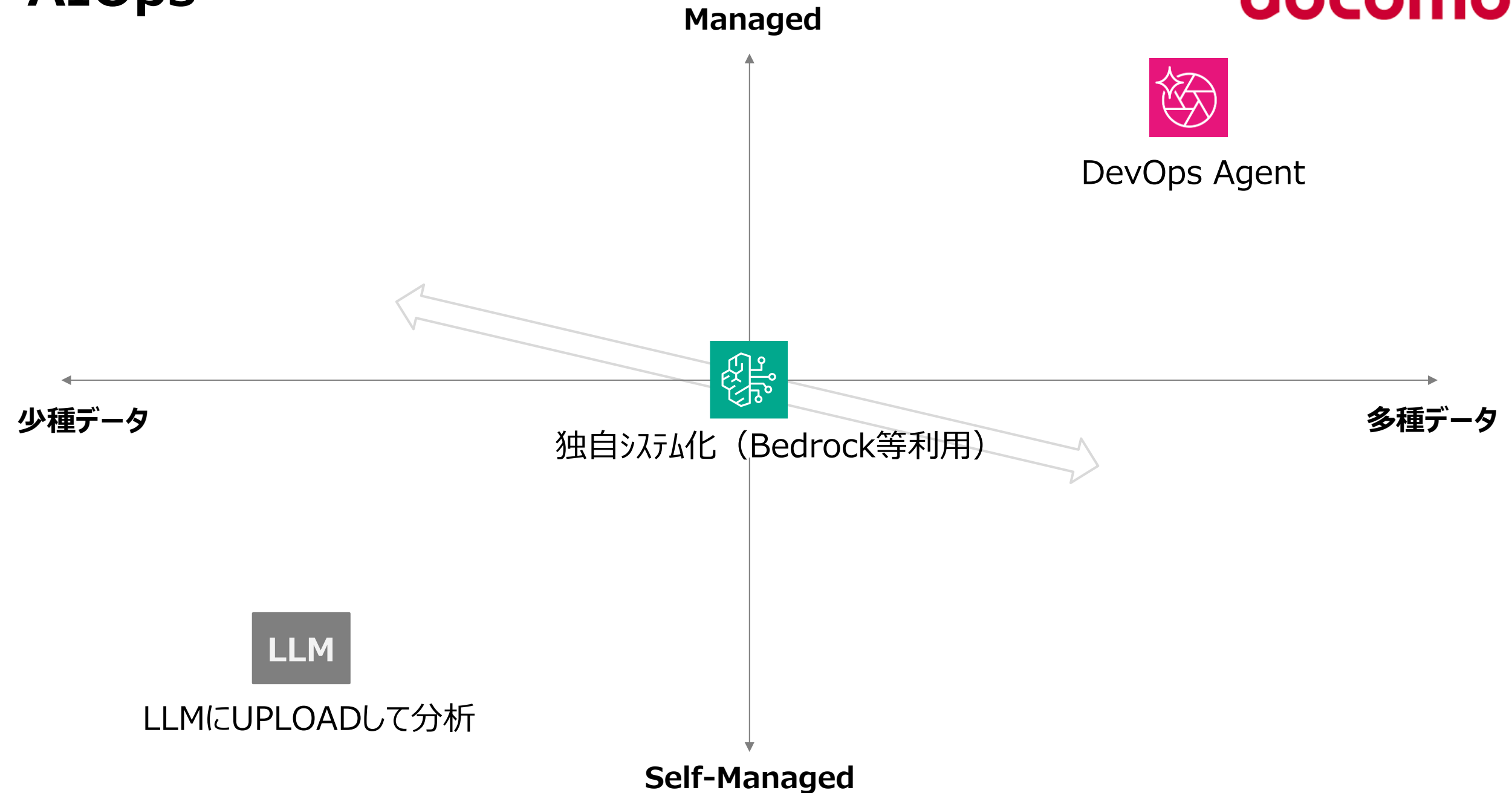
INCEPTION（10スキル）→ CONSTRUCTION（7スキル）→ OPERATIONS（1スキル）

INCEPTION（10スキル）		CONSTRUCTION（7スキル）	
aidlc-core	ワークフローの入口・用語定義	aidlc-functional-design	ビジネスロジック詳細設計
aidlc-session	セッション継続性管理	aidlc-nfr	非機能要件設計
aidlc-workspace-detection	プロジェクト種別の自動検出	aidlc-infrastructure-design	インフラ・デプロイ設計
aidlc-requirements	適応的深度の要件分析	aidlc-code-generation	コード計画・実装生成
aidlc-user-stories	INVEST基準のストーリー生成	aidlc-security-check 追加*	セキュリティスキャン
aidlc-ui-mockup 追加*	React/HTMLプロトタイプ生成	aidlc-build-test	ビルド手順・テスト実行
aidlc-workflow-planning	実行計画の策定と可視化	OPERATIONS	
aidlc-application-design	コンポーネント・サービス設計	OPERATIONS: aidlc-operations（今後拡充予定）	
aidlc-units-generation	作業ユニット分割		
aidlc-reverse-engineering	既存コードベース解析		
aidlc-development-standards 追加*	複数ユニット間の開発規約		

追加：公式aidlc-workflowsにはない、ドコモCCoEで追加した機能

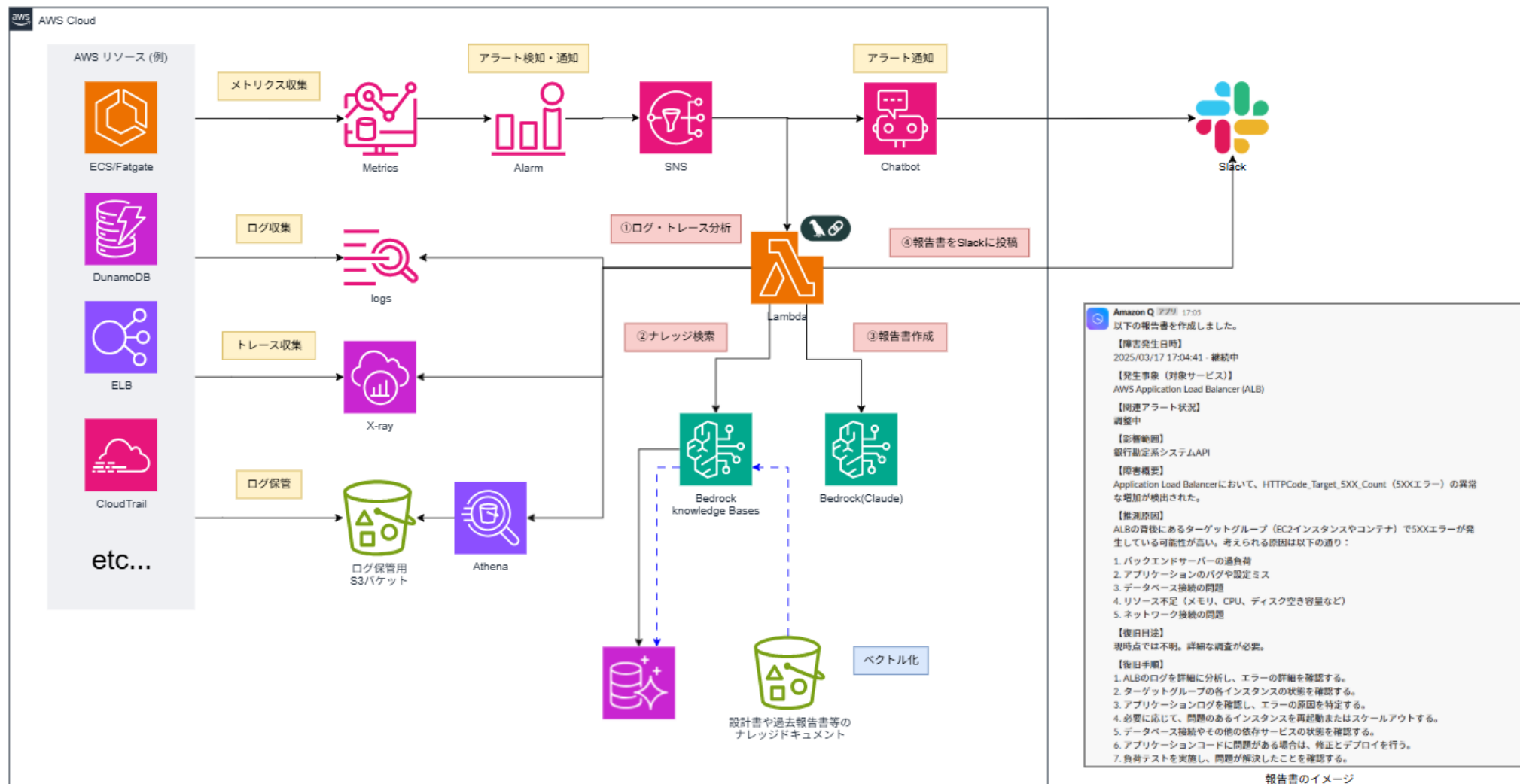
AIOps & ガードレール





例 独自システム化

CloudWatch Alarmにアラートが通知される際に、AIエージェントに連携。障害の原因と影響範囲を分析し、復旧手順案の報告書をSlackに通知。



障害発生時に原因分析や対策案提示してくれる

この件、DDoS攻撃っぽいリクエストが原因だったかなと思うんだけど、リクエスト元のIPとか国の分析できる？

09:32

はい、DDoS攻撃のような不正なリクエストが原因だったかどうか、リクエスト元のIPアドレスや国を分析できます。

ALB（Application Load Balancer）のアクセスログにはクライアントIPアドレスや詳細なリクエスト情報が記録されているので、5月14日 1:55-2:20の期間中のアクセスログを分析して、以下を調査しましょう：

1. IPアドレスの分布：特定のIPからの大量リクエストがあったか
2. 地理的な分布：どの国・地域からのアクセスが多かったか
3. リクエストパターン：正常なトラフィックと異なる特徴があるか
4. エラー率の高いIP：5xxエラーを多く受け取ったIPアドレス

では、ALBアクセスログを分析します。

👍 🔄 📄 09:39

21 個のツール・1 個のエージェント・1 個のスキル 使用済み

調査が完了しました。DDoS攻撃であることが確認できました。

攻撃の詳細

主犯IPアドレス

- 攻撃リクエスト数: 約1,900～2,000リクエスト（15分間）
- 攻撃期間: 16:50～17:05 UTC（JST 1:50～2:05）
- トラフィック占有率: 全トラフィックの85～92%
- 攻撃レート: 毎分60～100リクエスト以上（最大で毎分300～400リクエスト）

通常時との比較

- 通常時（攻撃前）: 毎分20～24リクエスト（全IPから）
- 攻撃時: 毎分140～150リクエスト
- 増加率: 約500～600%のトラフィック増加

Slackから分析依頼ができる

上記のエラーメッセージから、失敗したメッセージの内容を確認してください。

 翻訳する



CAROL_DevopsAgent アプリ 5月11日 15:41

S3バケットからエラーメッセージファイルを取得して、失敗したメッセージの内容を確認しますね。
Calling s3.get_object to gather more informationDoneResendErrorList.csv ファイルの内容を確認しました。
以下が失敗したメッセージの詳細です：

📄 失敗したメッセージの内容

メッセージ本体：

```
json
{
  "processDiv": "01",
  "acctId": " ",
  "campaignId": "28012",
  "campaignCodeMobills": "B126CSDVP012",
  "registDate": "2026-05-11 11:45:22"
}
```

エラー情報：

- **GuidanceCode**：M010363
- **GroupId**：（空）
- **DeduplicationId**：（空）

🔍 メッセージの内容サマリー

- **プロセス区分**：01
- **アカウントID**：00000000000000000000000000000000
- **キャンペーンID**：28012
- **Mobillsキャンペーンコード**：B126CSDVP012
- **登録日時**：2026-05-11 11:45:22

このメッセージは1件のみで、Mobillsへの再送処理が失敗しているようです。このキャンペーン情報について、さらに詳しく調査しましょうか？例えば：

- このキャンペーンID（28012）の詳細を確認する
- 同時期の関連ログを調査する
- この時間帯の他のエラーやシステムの状態を確認する

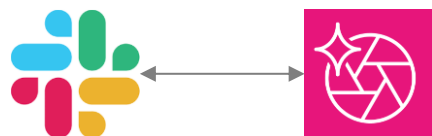
どのように進めますか？ResendErrorList.csvファイルの内容を確認しました。以下が失敗したメッセージの詳細です：

📄 失敗したメッセージの内容

メッセージ本体：

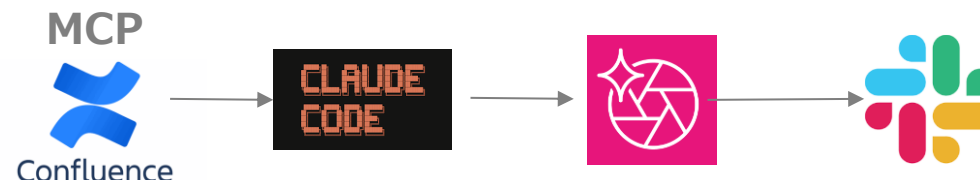
例 DevOps Agent

■ Slackとの連携



- ・チームに障害分析AIが参加！
- ・障害分析AIは速く正確に動く！
- ・Alert自動連携 & 自動分析 & 自動報告可！
- ・即座にチームメンバーに共有される！

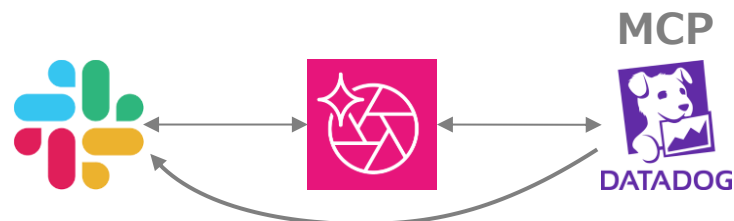
■ 定常オペレーションをそのまま自動化可能



- ・Confluenceの手順書からSKILL.md自動生成

半日かかっていた作業が**10分**に短縮

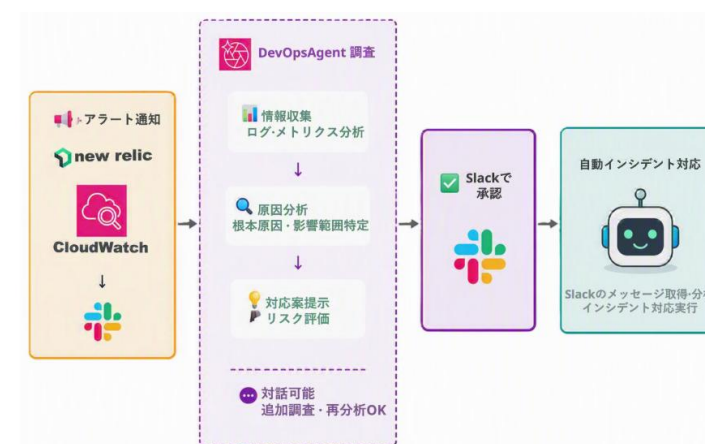
■ Datadogとの連携



- ・DatadogのAPMなどを使った高度な分析可！
- ・DatadogのAlertからの自動分析も可能！

■ 自動インシデント対応

復旧稼働
0へ



AIを使った商用システム状況問題自動判定



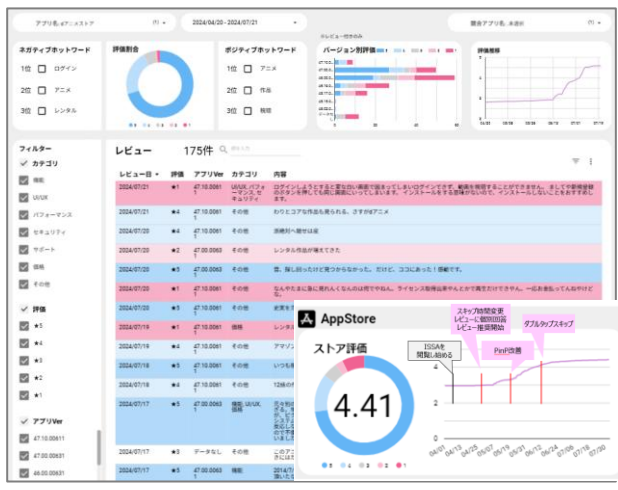
今後へ向けて

2022年から取り組んできた改善がAI駆動開発AIOpsでさらに加速！

データをフル活用した改善

アジャイル開発
AI駆動開発
including 試験自動化
+
運用の自動化
AIOps

行動データやお客様の声などの
AI高速分析 + 高速開発ループ
⇒CX向上⇒EX向上



参考) アプリストア評価向上

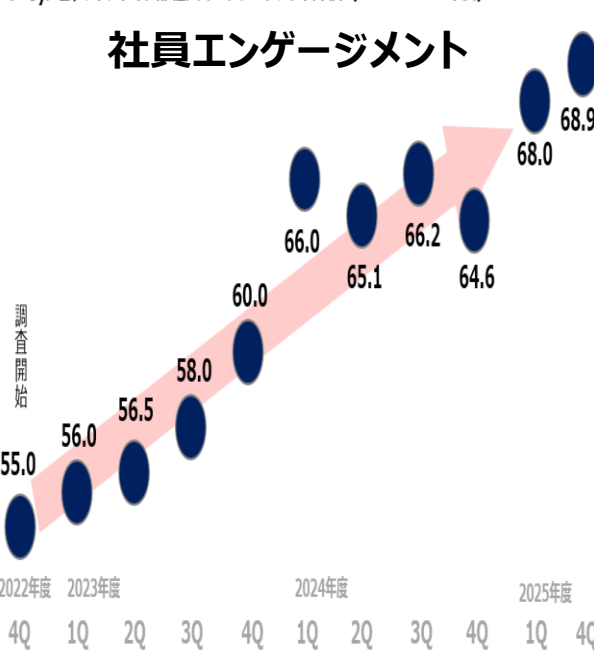
AppStoreとGooglePlayの平均 (黒字は22/4 (その後のサービス開始含) →赤数字は25/3未時点)

Usability

62



参考) プロダクトデザイン部社員のエンゲージメント評価 (2022-2025年度)



Value

<iOS>

アプリ評価 ★3.0 → ★4.4

DL率 1.5倍

<Android>

アプリ評価 ★2.7 → ★4.6

DL率 2.1倍

プロダクトグロース

Delivery

アジャイル開発率
60%に拡大

AI駆動開発
本格展開

Quality

品質指標
年間 ΣMTTR
83%削減
リリース失敗率
0.5%以下

AIOps展開

Cost

クラウドコスト
2年連続
10億円超削減

生成AI取組効果
10.8億円減
@2026年度

サービスプロダクトの価値向上を支える冰山構造

見えている成果は氷山の一角。価値は水面下の取り組みで育つ。

価値向上の本質は水面下にある

売上、利益、離脱減

NPS, CES, TSR等

DORA 4keys等

SPACE等

Value

Usability

Quality

Delivery

AI駆動開発
AIOps



売上



継続率



収益性



使いやすさ



満足度



信頼



品質



速度



改善



データ活用



顧客起点



連携



学習



自律

ビジネス結果層（経営が気にする指標）

顧客体験層

デリバリー層

組織・カルチャー層

新機能

使い勝手向上

プロダクト
グロース目的

PBI

技術負債

今後へ向けて



顧客体験価値を向上させ、
プロダクトの競争力を手に
入れるために**AI駆動開発**は
避けては通れない！



チームを超えて**ハーネスエン
ジニア リング**を育てること
で、**高速高品質**に改善し**競
争力**のあるプロダクト
を提供しつづけたい！

世界のトップランナーへ！

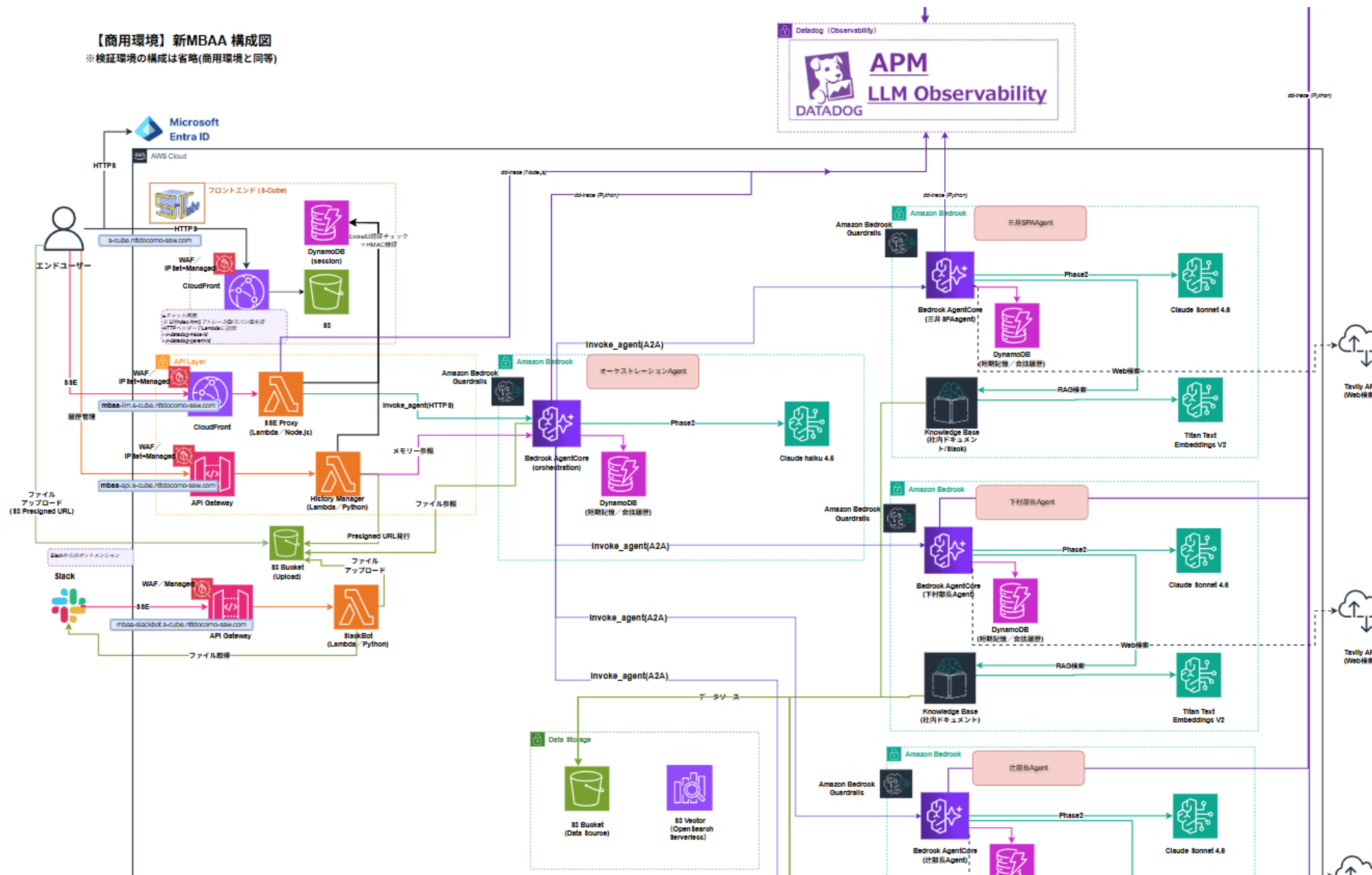
ご清聴ありがとうございました

参考

© 2016 NTT DOCOMO, INC. All Rights Reserved. 28

マルチ部長エージェント構成図

【商用環境】新MBAA 構成図
※検証環境の構成は省略(商用環境と同等)

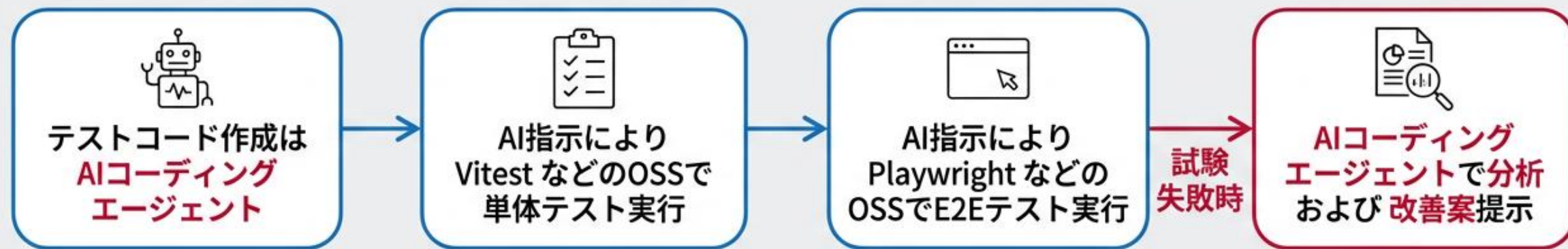


テスト

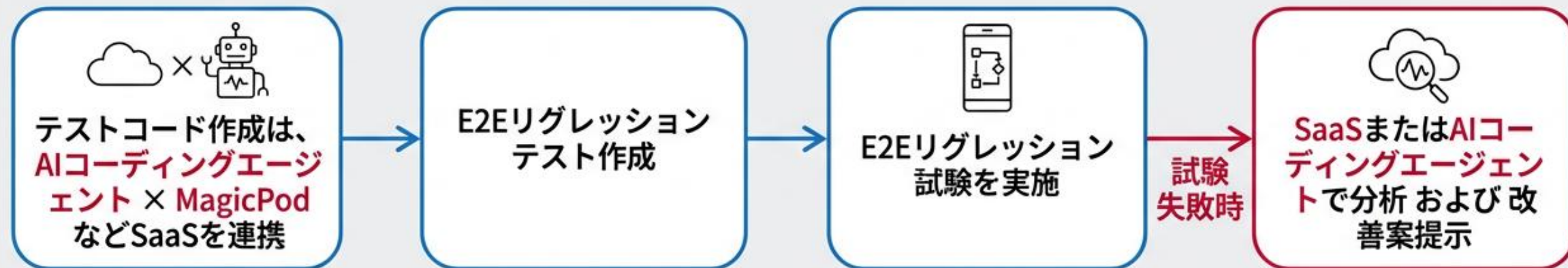
本ページについてはAI DevEx Conference 2026にて詳細説明予定
2026.7.22 登壇

AI DevEx
Conference 2026

OSS活用（Webブラウザ、WebAPIテストなど）



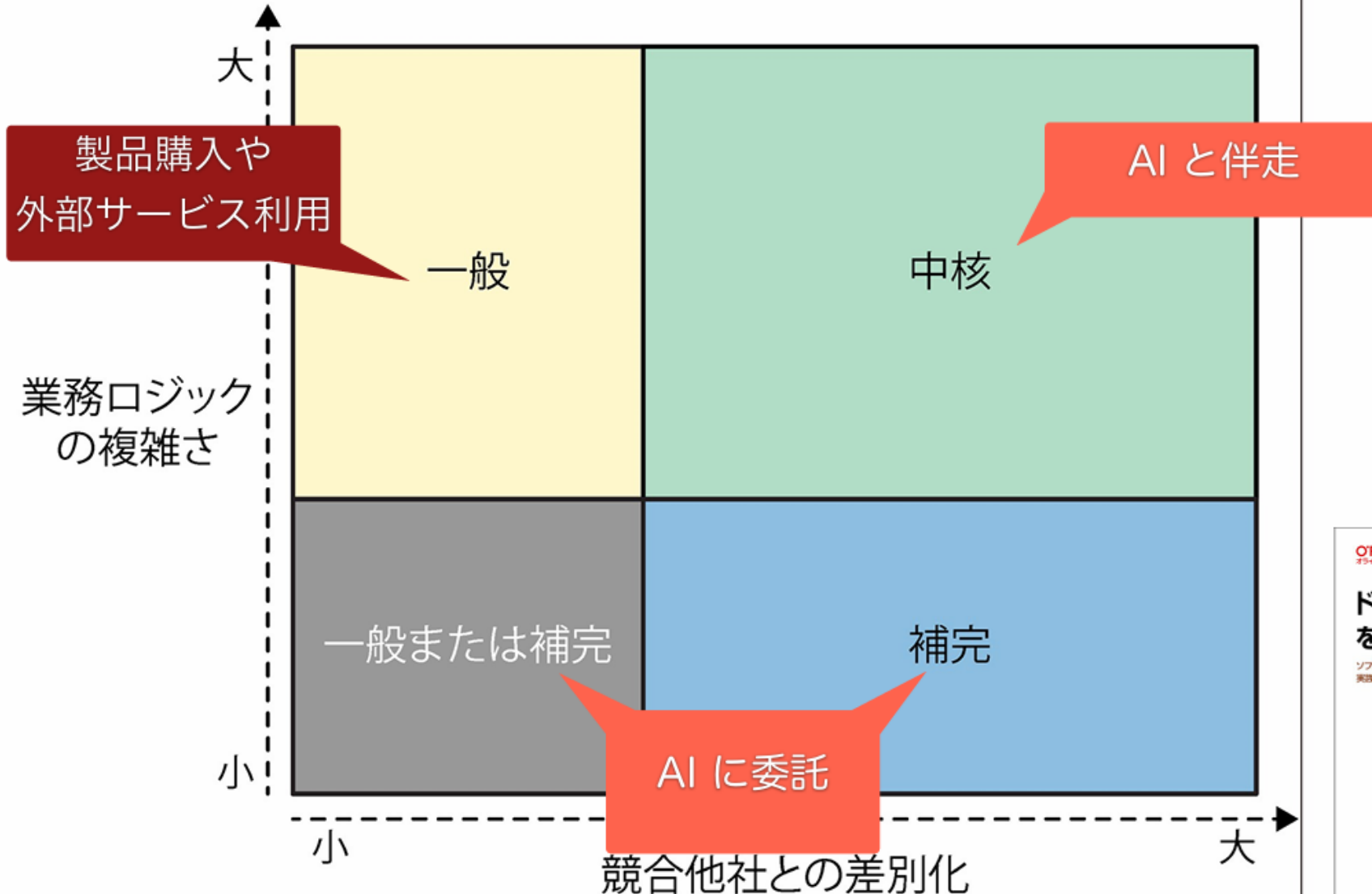
SaaS連携（モバイルアプリE2Eリグレッション）

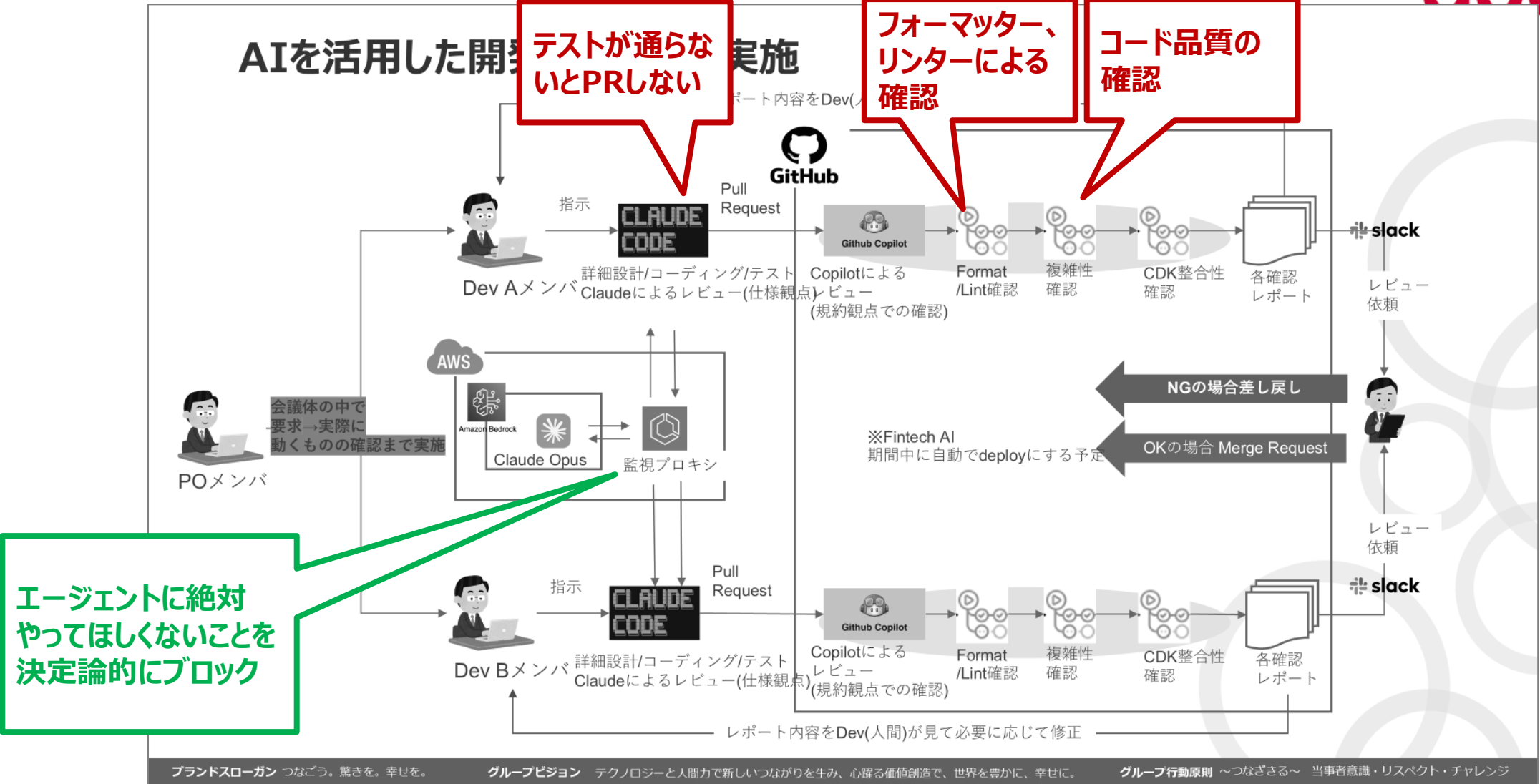


AIとの協業 2つのモード

- ・**AIと伴走**（現在はSDDで発展）
- ・**AIに委託** 自走するAIたちに任せて並列開発（圧倒的に速い）

どの領域にどう AI を使うか





監視プロキシによりブロック

- 1層.Denyリストによるブロック

Denyリストに基づき(R/W/Bash)コマンドをブロック

2層.URLフィルタリング

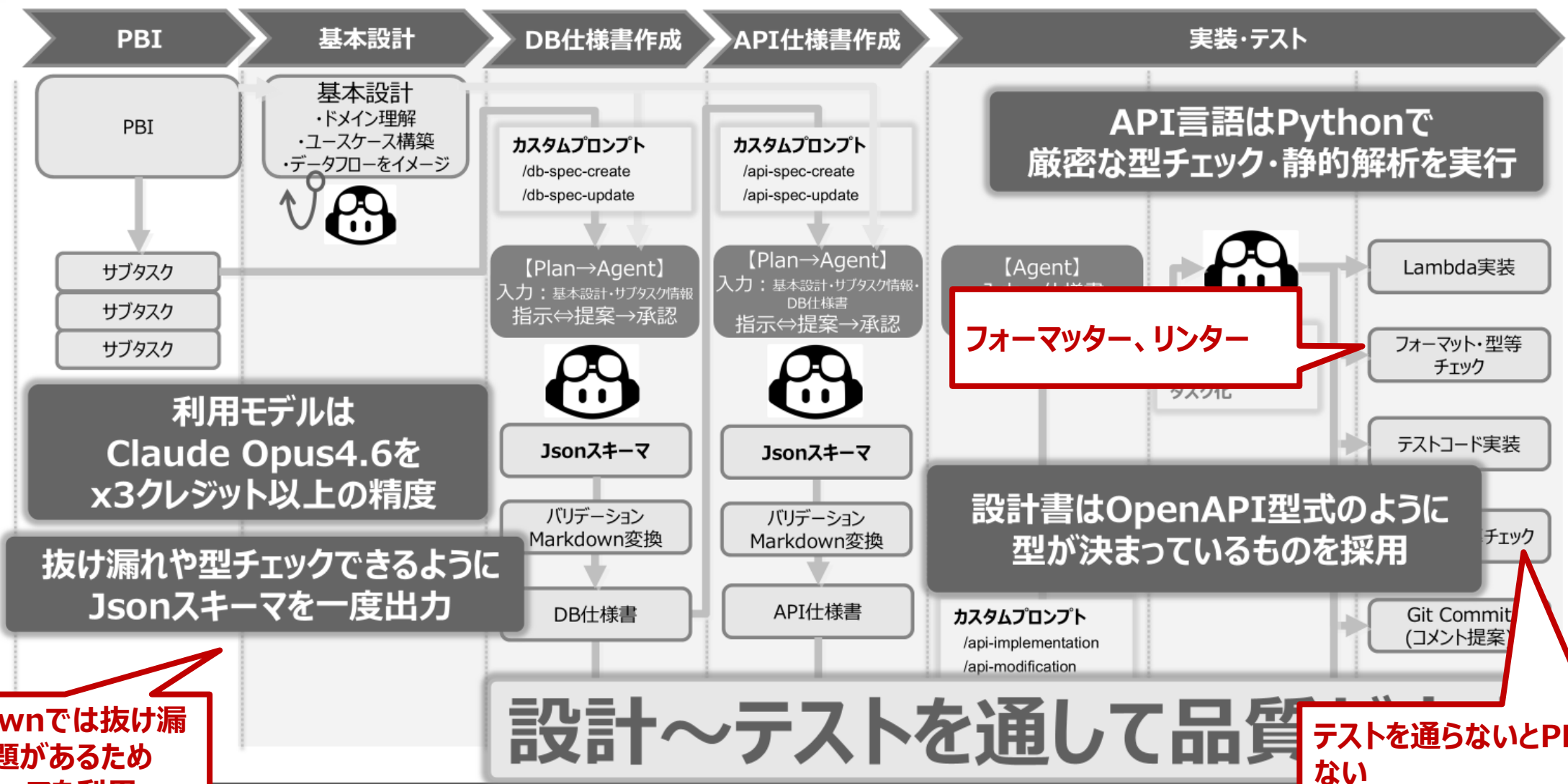
Whiteリスト外だったらブロック
- 3層.Bedrock ApplyGuardrail API呼び出し

Guardrail APIを呼び出しポリシーを元にブロック

4層.キーワードティアード方式によるブロック

機密情報・流出先キーワードの組合せでブロック

高品質な設計・製造・テストのため適材適所に集約（API例）



Markdownでは抜け漏れや型問題があるため
Jsonスキーマを利用

テストを通らないとPRしない

✓ AIが自走できる自動品質検証 フォーマット、リント、型チェック、テスト

BE (Python + SAM)

#	ツール	検証内容
1	Ruff	フォーマット+リント
2	mypy strict	静的型チェック
3	pyright strict	型チェック二重化
4	pytest 90%	カバレッジ閾値
5	sam validate	laC検証
6	JSON Schema	仕様書バリデーション
7	pre-commit	11 hooks 一括実行

FE (Vue.js + TypeScript)

#	ツール	検証内容
1	ESLint	vue3-recommended + @typescript-eslint
2	TS strict + vue-tsc	型チェック
3	DOMPurify + CSP	XSS対策・セキュリティヘッダー
4	JSON Schema + ajv	画面仕様書バリデーション
5	Vitest	Lines/Func 90%, Branch 80%
6	FSD依存ルール	アーキテクチャ規約 (instructions駆動)
7	CI test.yml	PR時に自動実行

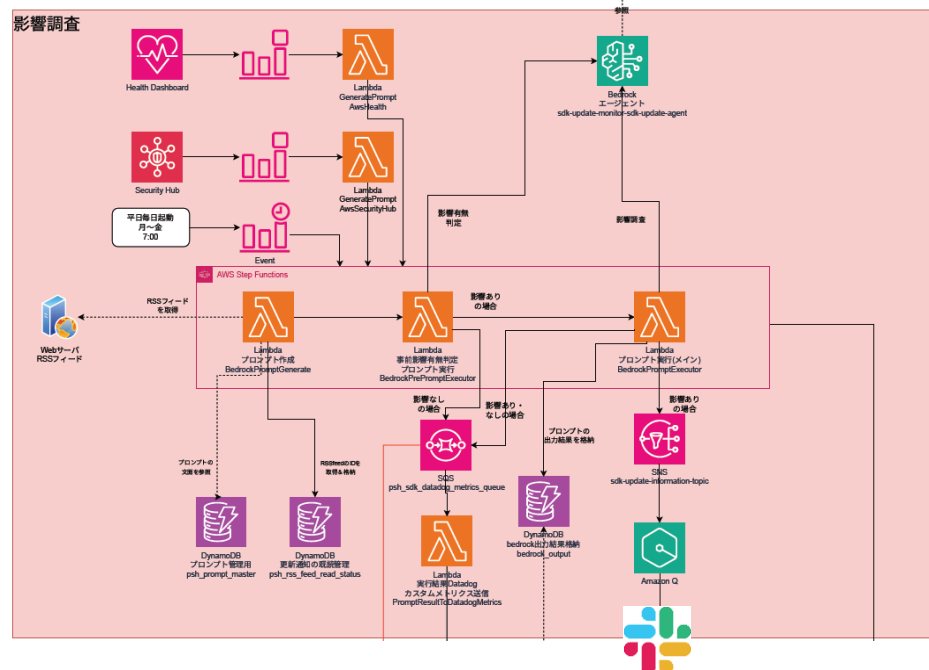
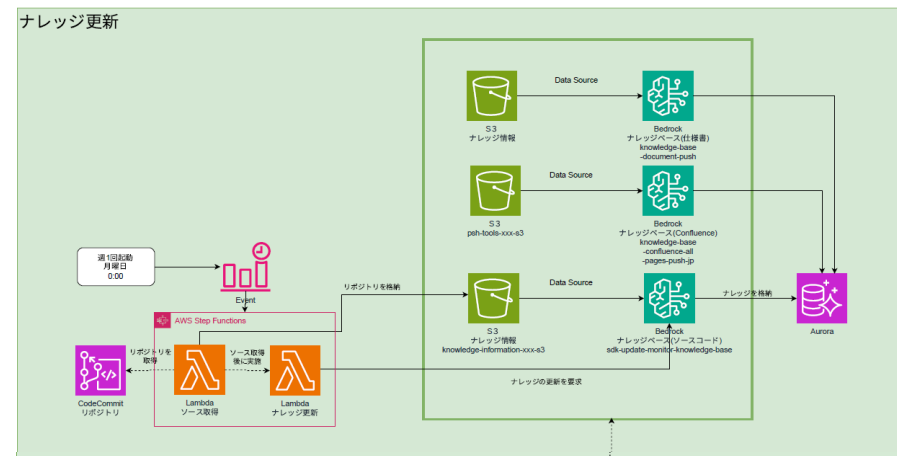
⇒型付き言語で手戻りをほぼ0に！

✓ 推論サンドイッチ

仕様書（深い推論） ⇒ 実装 ⇒ テスト ⇒ レビュー（深い推論）

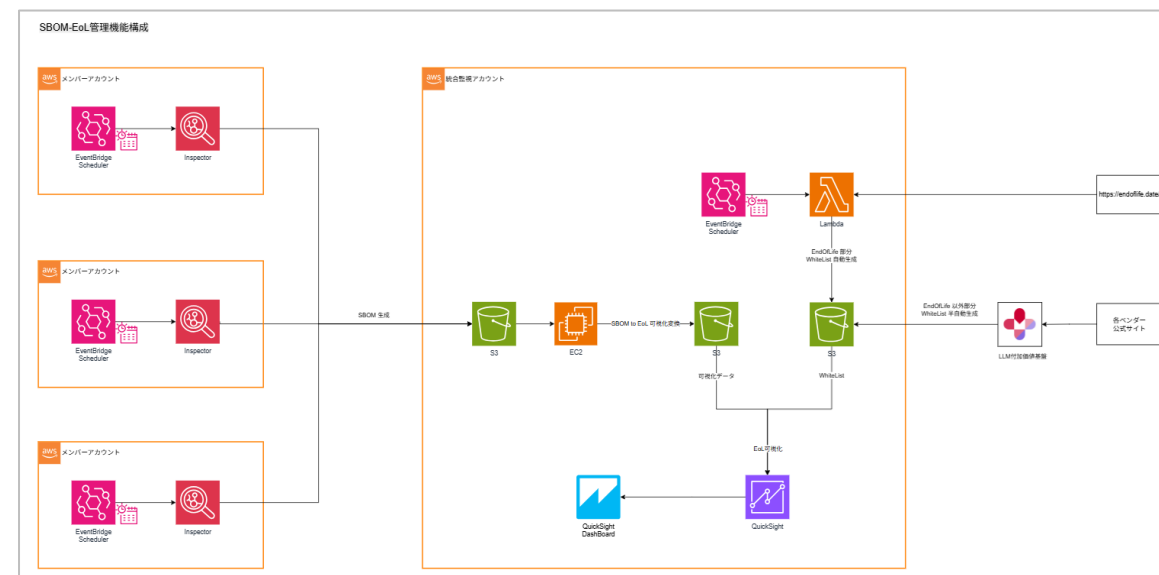
AIを活用した開発中のEOL判定

AIエージェントが自動判定



AIを活用した商用提供中の日次EOL判定

インターネットEOL情報をLLMで構造化しSBOM突合



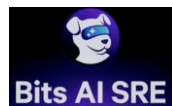
統合監視基盤の一部

高精度（推測）



AWS DevOps Agent

AWSリソース横断AIOps



Datadog Bits SRE AI
NewRelic SRE Agent+AIOps

Datadog内後段AIOps自動

Bits AI Agents

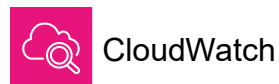
Datadog Bits AI Agents
NewRelic SRE Agent + Workflow

AIにいろいろ聞いてみる



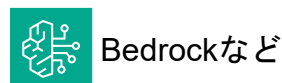
Datadog Agent Builder
NewRelic Agentic Platform

データ・タイミングカスタマイズ可



AWS CW Investigations

Cloudwatch内AIOps



独自システム化（Bedrock等利用）

値段と精度をコントロール可



独自に人手でやる

精度は低いが役に立つ

低精度（推測）

ドコモグループ

スマートライフ事業

年間リリース回数 : **12,000+**

システム数 : **108**

アプリ数 : **121**

社員数 : **592**

クラウド利用システム **89 (82%)**

アジャイル開発対象プロダクト **124 (60%)**